# 資　料　編

目　次

１．検討方法について　－１－

２．市民との意見交換会、議員アンケートのまとめ　－２－

３．市民との意見交換会　記録　-15-

４．議員アンケート　記録　-40-

５．検討の軌跡（ホワイトボードの記録など）　-58-

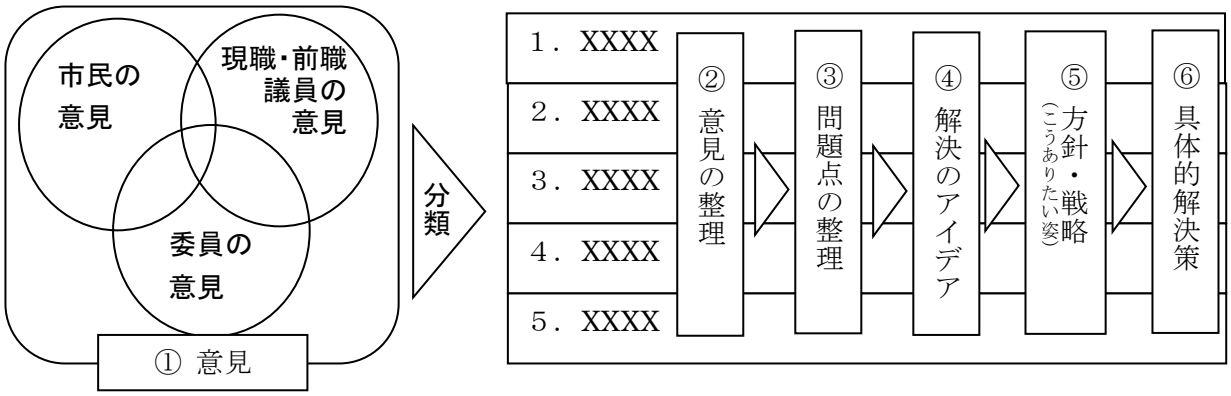
## １．検討方法について

検討過程においては、市議を目指すことに興味のない（あるいは、興味のある）市民や、実際に市議に立候補するに至った現職･前職議員の意見も聴きながら、多面的・多角的に検討を行ってきました。

当検討会では、市民の皆さんからいただいた意見をはじめとする多様な意見を、６つの大項目（検討過程において５項目に整理し直しました。）に分類整理し、それぞれに「方針・戦略（こうありたい姿)」を打ち出して、「具体的解決策」を検討してきました。（下記イメージ図のとおり）

検討に当たっては、ホワイトボードミーティング※1の手法を取り入れ、対話を通じた議論の活性化を図るとともに、議論の見える化により会議を効率的に進めました。

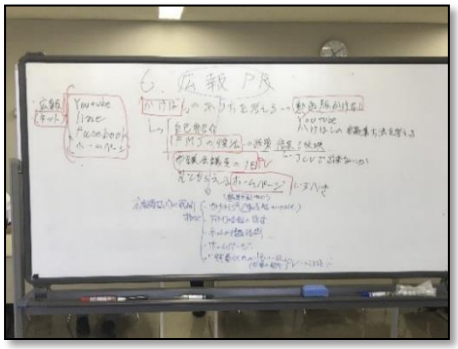
【イメージ】




※1　ホワイトボードミーティングとは

ホワイトボードを活用して進める話し合いの技術で、進行役を「ファシリテーター」、参加者を「サイドワーカー」と呼びます。進行役が参加者の意見をホワイトボードに書くので、何を話し合っているかが明確で、効率的、効果的に会議を進められます。ビジネス、教育、行政、医療、福祉、子育て、スポーツ、市民活動、ＮＰＯなど、様々な場で取り組まれています。

会議の様子（ホワイトボードミーティング）



ホワイトボードの一例

## ２．市民との意見交換会、議員アンケートのまとめ

平成 29 年６月に実施した「市民との意見交換会」では、28 名の市民の皆さんに参加いただき、小グループに分かれてホワイトボードミーティングにより活発な意見交換が行われました。また、同月に実施した「議員アンケート」は、前職議員を含む 33 人から回答をいただき、出馬を決意したきっかけや、初選挙における感想など、体験者の生の声に触れることができました。

ここでは、検討会において、これらの意見を６つの大項目に分類し、整理したものを掲載します。(検討過程において、当初 6 項目に分類していたものを 5 項目に整理し直しました。)

### １．政治への無関心からの脱皮を（市民の理解アップ）

**（問題点の見える化）**

**①指摘事項（阻害の現象）※～だからならない・なれない**

政治そのものに関心ない

「仕事、育児、家事…忙しくて政治に関心が向かない」
「家族と幸せに暮らせればいい」
「関心が持てる政治的テーマがない」
「自分の課題と政治がリンクしない」

市議の仕事が分からない

「市議が何をしているか分からない」
「市議の顔が見えない」
「「議員」という存在が、一般生活から遠いところにある」

「難しい専門用語が多くて理解できない」
「やり取りを聞いても、何をいっているか分からない」

市議に必要性を感じられない

「市議会の存在意義が分からない」
「議会の必要性あるのか。何の役に立っているか分からない」
「やっていることが生活に関係していないイメージ」
「町内会・地域協議会で事足りると思ってしまう」

議員という仕事のどこにやりがいがあるのか分からない

「何をもの好きに議員なんて…」
「議員にやりがいがあるとは思えない」
「議員として何を目指すのかというのが、現議員の中に明確に見えない」

**②指摘事項の整理**

【そもそも政治そのものに関心ない】からならない
【市議の仕事が分からない】からならない
【市議に必要性を感じられない】からなる気にならない
【議員という仕事のどこにやりがいがあるのか分からない】からなる気にならない

**③考えられる原因（真の問題点）**

根本的に政治への関心が薄い。
市議会・市議会議員がどういう仕事をしているか、ふだん垣間見えてもこないと市民は思っている。
議員の「やりがい」も分からないから魅力を感じない。
何よりも「市議会議員なんていてもいなくても市政に影響ない」と思っている市民が、無視できない数存在することが真の問題だ。

**（解決へ）**

**④解決へのアイデア（～が必要だ）**

【市議会・市議会議員の仕事を理解してもらうこと】

「若者・女性を含む各層の市民を対象に「議員養成」を目的とした講座を開講し、行財政など必要な基礎知識全般や、あるいは現職議員・議員経験者等を呼び、選挙対策や活動ノウハウなど提供する。「市民大学まちづくり講座」などの形をとり、そこに運営を委託しても良い」

「一般市民への案内をはじめ、青年会議所、労働組合、各種サークル、NPO 法人、女性団体、農業団体、その他市民団体等に広く呼びかけ、それぞれの分野から体験講座として参加者を募る努力を」

「時々の行財政課題などをテーマに現職議員との交流・意見交換会などを実施する」

「小・中・高校生の議会傍聴 ＋ 議会の学校訪問」
「高校・大学などで、地域における議員の役割や必要性などを教える機会を設ける」

「議会だよりに議会の成果を特集として掲載」

「子ども議会・若者議会・お母さん議会の開催」
「土日曜議会、休日の議会、夜間議会の開催」（職員の時間外勤務、子育て世代議員への配慮も必要）
「若い世代や女性との意見交換会を継続して行う」（広報広聴への要請）
「議員の生活を知る紹介本の作成」
「サポーター制度の導入」

「議員としての仕事の成果が目に見えにくいことから、メディアを利用し、議員の仕事紹介や今月の予定など、市民に積極的に伝える仕組みづくり」
「ネットをもっと活用する」
「議会だよりは分厚すぎる、チラシを毎日発信したらどうか」

**【市議会・市議会議員の『やりがい』を理解してもらうこと】**

**■故郷・ふるさとの人に貢献できる「やりがい」**

ふるさとへの恩返し
地域に貢献する活動
多くの方がより安心して暮らせるための活動
ふるさとのみんなが元気に明るく暮らせるようにしたい
まちの改革への使命感
上越市への思い・使命感
生まれ育った街を次の世代にしっかりと渡したい

当市が持っている可能性を引き出し、住んで良かったと思える街づくりに貢献
市民のいのちや暮らしを守る政治確立
地方自治を住民の手に
議会及び市政に若い意見を反映させたい
多くの市民とふれあいが容易で、生活に密着した問題などを共有できること
努力次第で、地域社会を改善できる喜びがあること。
市議が、市民のため「目的意識」を見いだし仕事をしていること

**■自己実現できるという「やりがい」**

市民の想い、考え、声を代弁できる
市民の意見や市政方針などについて直接理事者と質疑することができる
様々な政策提言を直接訴える場を得る
自らの思いを制度政策実現や行政のチェックを通じて実現できる
市政の問題や課題を改善するべく将来を見据えた政策議論や提案を行える

世のため、人のために力になれたと実感できる
あらゆる層との交流の場も広がるなど、人間的成長も大きい
視野を広げ、自分自身を磨き上げられる

**⑤方針・戦略（こうありたい姿になるために）**

「政治が自分たちの生活にどれほど深く関わっているか、また議会がどう役立っているかを市民が理解し、市議会議員のやりがいに共感してもらえる状態になる」

# ２．議会・議員のイメージアップを（議会が変えられること）

**（問題点の見える化）**

**①指摘事項（阻害の現象）※～だからならない**

悪いイメージがある

「議会は固苦しい」
「議会には難しい様式がありそう」
「形にはまった人がたくさんいる」
「新しい発想の人が出てこない」

「あげ足を取り合うような雰囲気、大人げない」
「ベテラン議員が強く、若者・女性がなっても発言力なさそう」
「ある程度経験を積んだ世代がやるイメージで、若いと偉そうにといわれそう」

「公約の到達度が見えない」
「選挙の後何もしていない（選挙の時だけさわぐ)」
「勉強していない」
「カッコ悪い」

大変そうなイメージがある

「激務そう」
「地域要望への対応など大変そう」
「視察など面倒くさそう」

「プライバシーがなさそう」
「自分の時間がなさそう」
「家族、仲間、地域との活動に制約ができてしまいそう」
「ある意味 365 日受け身体制であり、個人の時間が調整しにくそう」

「市民の見る目が厳しそう」
「行動すべてがバッシング対象になる」
「「やってできて当たり前」という市民の議員を見る目に重圧がありそう」
「なぜか議員を敵対視する人が多い（そんなに嫌わなくてもいいのに」」
「賛成してもいわれ、反対してもいわれ、どちらにしても批判される」

**②指摘事項の整理**

【悪いイメージ】があるからならない
【大変そうなイメージ】があるからならない

**③考えられる原因（真の問題点）※仮説　ここから検討を**

まず政治全般への深い不信感があることが問題。
そして議員の普段の活動が理解されていない、むしろ胡散臭く見られていることも問題だ。
例えば視察など政務活動が適正に行われているか市民は疑問の目で見ている。
市民が議員を見つめるまなざしはますます厳しくなっていることに議員が鈍感なことも問題である。
さらには、議員から市民への理解を求める行動が弱い、議員の情報収集力・発信力がともに弱いことも問題。

**（解決へ）**

**④解決へのアイデア（～が必要）**

**【政治全般への不信感を払しょくしてもらうこと】**

「議員とは何をしているのかを示す必要」
「市議の顔が見える、普段のがんばりが見えるような工夫が必要」
「市議会が若者や女性と接触する場を増やし、市政に市議会の活動が反映されていると実感してもらうことが必要」
「政務活動費など公費支出が明朗であることが必要」

**【議員活動に共鳴してもらうこと】**

「市民と議員が時間や場所を共有する必要」
「市民の悩みに寄り添って動くこと、考えることが必要」
「議会活動や議員活動そのものも、市民にとってより分かりやすく変革する必要も」

**【好イメージの醸成】**

「議会報告会などで、議会用語をなるべく使わない」
「議員の服装の簡易化」

**⑤方針・戦略（こうありたい姿になるために）**

「議会の基本的機能であるチェック機能や政策提言・付帯決議、条例の立案等に今以上に力を発揮し、議員の存在意義をさらに高める。それらの取組を市民に発信し、市民の理解と共感を得、市議会議員に対する不信感を払しょく、イメージアップを実現できた状態になる」

# ３．選挙の困難さの解決を
# （選挙は思ったよりトライしやすい）

**（問題点の見える化）**

**①指摘事項（阻害の現象）※～だからならない**

選挙を知らない

「選挙の制度・やり方が分からないとなかなか出られない」
「公職選挙法が難しい。選挙のルールが分からない」
「応援体制の構築が難しい。選挙に詳しい人がいないと立てない」
「後援会組織がないと、一から十まですべて手探りの状態で選挙活動をせざるを得ない」
「政党や団体がバックにいないと、なかなか厳しい」

選挙にお金がかかりそう

「選挙費用に対する不安がある」
「何にいくらかかるか見当もつかない」
「初めての立候補だと、初期投資のお金がかかる」
「印刷物費用が高い」

落選したら奈落の底に落ちそう

「選挙に落ちる恐れ」
「生活のリスクを抱える」
「大金を使うのに、落ちるか、受かるか分からない怖さがある」
「落選したときどうするのか、収入面でどうなるのか」
「子育中に無職になるのは、余りに無謀だ」
「子育て世代では、４年ごとに選挙があるため収入が安定せず、生活の保障もない中での立候補の決断は非常に厳しい」

**②指摘事項の整理**

【そもそも選挙に臨むなんて恐い】からやれない
【選挙のやり方を知らない】からやれない
【いくらかかるか知らない】からやれない
【落選したら大変だ】からやれない

**③考えられる原因（真の問題点）※仮説　ここから検討を**

一般の人々にとって選挙とは極めて特殊な挑戦で、普通はあり得ないことを、まず思い起こす必要がある。
意を決して選挙に臨もうとしても、やり方も分からないし、いくらかかるかも分からない。

選挙通の人に首を垂れるか、選挙慣れした団体などの協力を得るしかない。
また落選は、自分や家族の人生を狂わす恐れが強い。
これまでは候補者や関係者がそれぞれ苦労しながら乗り切ってこその当選であったわけだが、その苦労はこれからの新人にとっても当たり前と考えるか、できれば軽減してやりたいと考えるかである。

**（解決へ）**

**④解決へのアイデア（～が必要）**

**【市民からの幅広い人材発掘を考え、選挙に臨みやすい環境整備を諮ること】**

「選挙活動の費用の負担が大きいことの解消のための方策が必要」
「（公職選挙法の改正を前提に）供託金の廃止、選挙費用の公費負担の強化、実態に合わせた選挙期間の柔軟化など」

「選挙用政見放送」
「公費負担に関し、国に意見書も」

「お金のかからない選挙の研究」
「議員になるために必要な知識、資格などを紹介するマニュアルの作成」

**【選挙に臨める有給休職制度をつくること】**

「職場を退職せずに選挙に挑戦できる選挙までの数ヶ月間の有給休職制度」

「議員としての活動期間中の無給在職制度を」
「選挙期間中はもちろん、準備期間も「選挙準備と選挙活動」を保障してもらえる制度を」

**【選挙区制の変更を検討すること】**

「ブロックに分けての選挙区制」
「選挙区を全市一区制（大選挙区）ではなく、中選挙区制に」

**⑤方針・戦略（こうありたい姿になるために）**

「選挙の準備、体制作り、公職選挙法の理解から選挙費用、助成制度まで、選挙とはどういうものか知ってもらう。また現状選挙へ臨む困難さへの改善策を提案し、より幅広い人材が、選挙を恐れず出られる環境が整備された状態になること」

# ４．物理的課題の解決を（当選後の報酬など）

**（問題点の見える化）**

**①指摘事項（阻害の現象）※～だからならない**

議員の報酬で果たして家族を養えるか不安

「議員になっても生活を、特に子育てを支える報酬が不足している中では、他に安定した収入がない限り、現在の仕事を投げ出してまで挑戦する人は少ない」
「特に子育てなどで一番お金がかかる時期に議員に立候補するのは、ハードルが高い」
「議員と副業がスタンダードという認識が必要」

「報酬のわりには出費が多い」
「活動にお金がかかる」
「支持基盤を確立するために、支援組織づくりのために会合を開いたり、交流会を企画したりすることにお金がかかる」

議員の社会保障が貧弱で引退後が不安

「議員任期 4 年ごとに改選、身分が不安定で、落選すれば生活苦となる」

「国民年金では、将来の保障も心配」
「議員に対しての保障がしっかりしてくれば若い人も立候補しやすくなる」

**②指摘事項の整理**

**【議員の待遇と生活保障制度が貧弱である】からやれない**

**③考えられる原因（真の問題点）※仮説　ここから検討を**

議員報酬の引き上げは市民の理解を得ることがなかなか難しい。確かに約 700 万円という額は、当市の一般世帯の平均年収を大きく上回っているが、問題は 4 年に 1 回選挙に臨み落選の可能性もあるという不安定さだ。その危険性で尻込みする人々も多い。
また議員となったのちの報酬額は、例えば子弟を高等教育に向かわせるには決して十分とはいえない。さらに議員年金廃止後、国民年金だけとなり、社会保障制度的にも議員は貧弱な状況におかれている。ハイリスクローリターンかつ不安定、それが議員の生活であるとしたら、敢えて挑戦する人々がいるだろうか。

**（解決へ）**

**④解決へのアイデア（～が必要だ）**

**【議員の待遇改善と生活保障制度を確立すること】**

「これができないと、生活に余裕のある人や事業収入が見込める人以外に議員を目指そうとする人が出てこない。結果的に定年退職後や自営業の立候補者が多くなって、高齢男性中心の議員構成になってしまう」

**■報酬の増額**

「環境整備として議員の待遇を厚くすべきである」
「議員報酬は専業で務められるレベルにすることが必要」
「報酬を施行時特例市平均まで引き上げる適正化を」
「片手間に、ボランティア的に、あるいは名誉職的に扱うことで足りるとする風潮があるが、日本の地方自治の実態と有意性を全く見ない空論」
「50 万円台前半が望ましい」

「各派代表者会議・全員協議会を経て特別職報酬等審議会へ」
「第三者委員会等による客観的判断を諮問」

「議員報酬・議員出費の公開」（アベレージ）

**■政務活動費の増額**

「政務活動費の増額を」
「現状のままの場合、政務活動費を、会派 20 万・個人 40 万に」
「会派への政務活動費を、個人に一定配分する」
「出勤手当を、通勤距離に応じて引き上げる」

**■報酬と連動した議員定数の削減**

「単に議員報酬を上げるだけでは市民の合意が得られない。連動し議員定数を削減する」
「３２人から２５人に削減」
「２４名～２８名に」

「合併前と比べ大幅に削減されており、現状ではこれ以上の削減は行うべきではない」
「定数が減るとますます議員の存在が疎遠になる」

**■社会保険・厚生年金への加入**

「国への意見書・議長会への陳情等による、社会保険・厚生年金加入実現を」

**⑤方針・戦略（こうありたい姿になるために）**

「市民理解を得つつ、適正な報酬、政務活動費及び社会保障制度を実現し、4 年に 1 回の選挙に挑戦しようとする人々が安心できる状態になること」

# ５．取り巻く環境の解決を（家族・地域の理解を得る）

**（問題点の見える化）**

**①指摘事項（阻害の現象）※～だからならない**

家族・親族の理解を得られない

「最大の障害は家族。とりわけ配偶者の理解と協力が得られるかが課題」
「親戚に相談にいったが「ダメだ」といわれた」
「自らの暮らしを半ば顧みない生活となる。家族とのゆったりした時間が犠牲に。家族としては、そうしたことを心配して反対する」

「議員本人はもちろん家族（配偶者）まで、世間から厳しい目線が注がれることを懸念」
「家族も常に他人の目を気にしなくてはならない。家族にとって良いことは少なく、悪いことばかり」
「家事など家庭での役割をはたす時間がなくなってしまう」

所属した職場・団体の理解が得られない

「生活の場であった職場同僚への理解を得ることが、高いハードルであった」
「自分が活動していた団体から「応援しない」といわれた」
「最も障害になったのは、年度の途中での退職。結局職場や同僚に大きな迷惑をかけた」

地域の理解が得られない

「地域からの支援をもらうのに苦労した」
「地域では挨拶さえさせてもらえなかったので、一件ずつ回った」
「出る杭は打たれるという空気がある」
「有力者がいまだ中心となる地域の後進性がある」

**②指摘事項の整理**

**【家族・親族の理解を得られない】からやれない**
**【所属した職場・団体の理解が得られない】からやれない**
**【地域の理解が得られない】からやれない**

**③考えられる原因（真の問題点）※仮説　ここから検討を**

選挙に出ようと考えたとき真っ先に思い浮かべるのは、迷惑をかけるだろう家族・親族、そして職場だ。それらの理解をいかに得ることができるかが大きな課題である。
また地元には、様々なしがらみや思惑が交錯していることも多い。そうした中、新人候補に

逆風が吹くというケースもある。地元のコミュニティを大切にしつつ、意思を固めた候補者が自由に出ることができない環境であるとしたら、問題と言わざるを得ない。

**（解決へ）**

**④解決へのアイデア（出たもの一覧）～が必要だ**

**【若い世代や女性の地域活動を促す】**

「若い世代や女性が、普段から地域での活動に参画し、また役職につくことで、地域社会に対する責任感や愛着がわく」
「世代間の交流など、社会と関わっていく状態をつくることが大切だ」
「地域の活動などに参加し、うまく地域に溶け込んでから、立候補。本人のやる気、本気度があれば、市民は見ていてくれる」
「地域協議会、PTA、自治会などで活動し、それらの経験を経て、議員に繋げていく道筋もある」
「地域協議会から市議に立候補するという流れも今後考えられる」

「政治・議員に関心を持つような地域醸成が必要」

**【後継者づくり】**

「まちづくりや、政治に興味があり、愛市精神が旺盛である人に議会の事を詳しく教える」
「引退を心の中で決めたときから、自ら白羽の矢を立てた相手を説得すること」
（2 年前から自ら候補となるべき人の評判や身辺調査。最低でも 1 年前から本人や家族の説得をしないと遅い）

「定年制の導入」

**⑤方針・戦略（こうありたい姿になるために）**

「立候補希望者が家族・親族を説得できるだけの材料を提供できること、また地域や地元等からスムーズに出ることができる環境を実現した状態になること」

会が責任を持って提案できる範疇であるか、議論の余地ありと考える。

# ６．女性特有の壁を打ち壊す！

**（問題点の見える化）**

**①指摘事項（阻害の現象）※～だからならない**

女性は特に家族の反対がある

「特に女性は、配偶者など家族に理解してもらえない」
「女性は、自分自身でお金を持っていないので出づらい」

子どもを産み育てることと両立しないと思う

「子どもを産み育てながら、議員の仕事を両立するイメージがわかない」
「子育て環境が十分でない」
「（男女を問わず）子育てで時間の余裕がない」

女性が活躍することへの社会の偏見がある

「女性が政治の世界に挑戦できないのは、社会の問題である」
「親族や地域からの強い反対や反発がある」
「特に上越市では、どんなに女性が活躍する制度をつくっても、社会がそれを認めていない」

「議会は男性社会との思いが、女性側にも強くある」

**②指摘事項の整理**

【女性は特に家族の反対がある】からやれない
【子どもを産み育てることと両立しないと思う】からやれない
【女性が活躍することへの社会の偏見がある】からやれない

**③考えられる原因（真の問題点）※仮説　ここから検討を**

女性が活躍する社会の実現は国の方針でもあるが、「女性は家にいて家庭を守るもの」という旧態依然とした偏見が、いまだ上越では根強いと想像できる。
子どもを産むのは確かに女性だが、育てることに関しては夫にも同等の義務があり、家事もまたしかりである。議会という男性性が強い世界に女性が入り込めない状況はたしかに上越市に限らない社会的な問題であるが、当市が当市なりに「解決できることはやる」ことが大事である。

**（解決へ）**

**④解決へのアイデア（出たもの一覧）～が必要だ**

【女性の地位の向上】

「地域のいろいろな組織や職場の中での女性の地位を高め、常日頃から女性がその力を発揮し活躍できるようにすることが必要」
「女性の立候補は、家族の理解を得ることがなかなか難しい。女性議員の必要性を啓発することが必要」

「女性にも、議会は男性社会と考えている人がまだ多くいる。女性の政治に対する意識を変えていくことも重要だ」
「女性議員の必要性の啓発活動が必要」

**【子育て世代の女性への配慮】**

「子育て中の議員等への環境の整備が必要」※女性に限らない？
「女性をひとくくりにせず、定年退職後の世代、子育てが終わった世代、若い世代、その三世代に則した方策を」

**【制度上のバックアップ】**

「女性議員用にクオータ制を設けること」

**⑤方針・戦略（こうありたい姿になるために）**

「女性を支える社会的環境が整備され、家族の協力も得られやすい状況が実現した状態になること」

## ３．市民との意見交換会　記録

⑴　第１回

平成 29 年 6 月 23 日（金）に市民との意見交換を開催しました。

日中は勤務のために参加しづらい「働く世代」や、夕方以降は子どもの面倒を看なければならない「子育て世代」などに配慮し、昼の部と夜の部の二部制で開催しました。

多くの市民の皆さんにご参加いただき、活発な議論が交わされました。

ここでは、その概要を掲載します。

【会場の様子】

### ⑴　会場アンケート

**ア　参加者総数　28 人**

【昼の部:9 人(男性 3 人、女性 6 人）、夜の部:19 人(男性 12 人、女性 7 人）】

**イ　参加者の内訳**（アンケート結果より）

| | | |
|---|---|---|
| ①　性別 | 男性 | 14 人 |
| | 女性 | 12 人 |
| | 合　計 | 26 人 |
| ②　住所 | 合併前上越市 | 15 人 |
| | 13 区 | 9 人 |
| | 合　計 | 24 人 |
| ③　年齢 | 20 代以下 | 3 人 |
| | 30 代 | 6 人 |
| | 40 代 | 10 人 |
| | 50 代以上 | 7 人 |
| | 合　計 | 26 人 |

**ウ　意見、感想**

・大変話しやすく自由に意見を言える会でした

・思った以上に活発な意見がとびかいました。市議会がかわり、市民の意識がかわることを期待します

・毎月してほしい

・堅苦しい会かと思いましたが、そうではなく勉強になりました。良い機会をありがとうございました。

・議員が遠い存在に感じるという点が大きいと思いましたので、議会の内容であっても簡単に分かりやすく、ラフに議員へ接する機会が増えれば良いなと思いました。この様な意見交換の場があることは大変良かったです。ありがとうございました。

・議論の進め方（ファシリテーション）に問題ありと感じました。

・最初から結論や方向性を用意している感じが見てとれました。

・「最終的にどうすれば良いか？」についての議論に時間を割くべきだと思います。

・市議会のこうした取り組みは良いとして”そのアリバイづくり”的なものに”市民の声”がある意味利用されているようにも思えます。そうならないよう、良いかたちで今後の市議会に反映されるよう希望します。

・そもそもこの会もかたい。議員はスーツでなくてもいいのでは？どうしたら市民との違いを感じない型でやれるのか考えるのはどうでしょ？

・超おもしろかった！！議員のことを色々言ったが私たち市民は誰かがこうして物事を決めたり話し合ったり運営してくれていることによって私たちの生活があるんだという事を私たち市民も知ろうとする歩み寄りをしていかなくてはいけない

・こういった場を作ってくださったことがスタートだと思いました。企画ありがとうござい

ました。

・テーマも何もわからず現場で初めて知っての参加、知らない顔、知らない話、でもとても面白かったです。自分の知らないことを知るのはとても刺激になりました。市議の方たちの話が聞けてよかったです。そしてこんなにみなさんが色々考えていることに驚きました。
・議員とは企業や団体組織の声は聞くけど、女性・弱者の声は聞いても反映されにくい。反映してくれないのが大部分だと思っている。
・若者・女性が目指せないではなく、目指したくなる議員が増えれば必然的に憧れて、なろう！という人が増えると思います。
・まず、今日来ている若者・女性より他の人（一般市民）ははるかに興味が無い。→これは若者・女性側の問題でもある。貴重な意見も多かったので、自分なりにまとめて書類つくります。
・政治に興味がなかったけど、こういう場はとても意義があると思いました。あと、急に市議になろうと思う人はいないのでもう少し段階を踏んでほしい。一般の人も参加しやすい場にしてほしい。
・保育園、幼稚園、小学校、中学校で議員とはの講和を行って、子どもが議員は身近な人と思ってもらうことで政治に興味がわくのでは。
・チャレンジングな試みで大変良かったと思います。次に大事なことは「日常」だと思います。今回でフェイスブックによって集まった人が多かったように思います。これがヒントになると思います。
・言いたい事が少し言えてよかったです。参加しているメンバーがほとんど顔見知りだったのはこれからの課題ですかね。市議さんと接する機会がもてたことも良かったです。
・市民側（←この言い方も変）にも問題があると感じます。「市民による予算勉強会」「市議会サポーター制度」（プレ市議会）はいいと思いました。仕組みから入るということ。
・とても素晴らしい企画でした。市議の皆さまがスタッフとなって設営などして下さる姿に好感が持てました。市民の方々はこのぐらい近い距離で接せるのが「溝」を埋められるのでは？と思います。お忙しいかと思いますが何度も行ってほしいです。
・よい機会でした。やはり、市議の仕事が見えず、志をもって（リスクがあっても）挑戦しようとはなかなか思えることができませんね。
・直接な解決は難しいが、今日出た意見（粒）を、波（心の流れ、動き）に変えられたら何か変わると思います。
・サポータースタッフを置く
・とても良かった。前に進めそうな議論も出て、また、ここで終わらせず次どうするかが大事。
・議員と市民の溝を埋めるためにこのような会は定期的に開催してほしいです。なかなか楽しめました。

### ⑵　会議記録（抜粋）

#### ア　昼の部

Ａグループ（委員：小竹俊之、渡邉隆）

（報告者による報告）

・要因を、「イメージ、環境／制度、議会（意義）」の３つに分類した。
・そのうえで、どうしたら立候補するかを考えた。
　①要因をそれぞれひっくり返せば良い。
　②イメージが変わるような状況を作る必要がある。
　③環境や制度が変われば良い。
・具体的な取組を考えた。
　①市議の顔が見えるような活動が必要だ。（活動の見える化）
　②ワクワクするような市議会になる。
　③まずは、市議会に動いてもらうことだ。

（ホワイトボードの内容）

（分類）【○：イメージ、△：環境／制度、□：議会（意義）】

| ○：イメージ | △：環境／制度 | □：議会（意義） |
|---|---|---|
| ・固いイメージ<br>・市民からいじめられそう<br>・肩の荷が重い<br>・市議にワクワクしない。 | ・忙しい（仕事、育児、家事）<br>・お金がかかりそう<br>・選挙が面倒くさい<br>・人脈がないため、なれない | ・市議の仕事が分からない<br>・市議の存在意義が分からない<br>・自分の課題とリンクしない<br>・市議の顔が見えない |

Ｂグループ（委員：宮川大樹、櫻庭節子）

（報告者による報告）
・（選挙、お金など）知らないことが多すぎる。
・選挙に出るまでの壁が大きい。
・仕事を辞めなければならない。
・町内会の会合は、70～80 代の方が多く、40～50 代の人は少ない。
・地域での役職も同様に、70～80 代の人が多い。
・若い世代や女性が、地域での活動に参画し、また、役職に就くことで、地域社会に対する責任感や愛着が湧くのではないか。
・世代間の交流など、社会と関わっていく状態を作ることが大切だ。

（ホワイトボードの内容）

選挙に出るまで
・応援してくれる人を見つけるのは難しい。
・職場やグループで推してくれる可能性は？
・勝算を持てないと出られない。
・親、家族の反対
・「出る杭は打たれる」という空気
・社会の雰囲気「家長が決める」
・「女、子供が」という考え方
・「家事は女の仕事」という考え方

議員になってからも大変そう
・知識がないとできない。（市政、地域のこと）
・視察など面倒くさそう
・地域要望への対応など大変そう
・資料集めも大変そう

お金もかかりそう
・まず、選挙に何百万円もかかるイメージ
・それで生活できるのか
・身分保障はどうか。（厚生年金）
・

・何に、どの位お金がかかるのかという情報

・保障は必要

議員になる為に必要な知識､資格などを紹介するマニュアルがあるといい。

議員の生活を知る紹介本

Ｃグループ（委員：滝沢一成、橋爪法一）

（報告者による報告）

・「議員」という存在が、一般生活から遠いところにある。
・選挙にお金がかかりそう、やり方が分からない。
・支援する組織があれば選挙に出やすい。
・夢を持ってチャレンジしている若者がやりたいと思うこと、その延長上に、「議員」が入っていない。
・家族の反対がある。特に女性は理解してもらえない。
・お金がかかるけど、お金を持っていない。（特に女性はお金を持っていない。）
・将来、自分の子どもを産み育てながら、議員の仕事を両立するイメージが湧かない。
・では、どうしたらいいのか？
　→身近にロールモデルとなる人がいたり、クチコミがあれば、理解しやすいのでは。

（ホワイトボードの内容）

| | |
|---|---|
| ・お金に不安を感じる。<br>・今の仕事をやめられない。<br>・家族を養えない。<br>・議員の給料が分からない。<br>・子どもの学費が心配<br>①市議で生活できることを示す<br>②報酬を上げる | ・女性は子育てしながら<br>・情報発信がない。<br>・仕事分からない。政治家は難しそう。大変そう。<br>・先頭に立ってやっていこうという意思を持てない。<br>・若者が目指せる職業に（お金を稼げるか）<br>・「夢を持て」と育てられた。<br>・働ける場があるので目指さない。安定している。<br>・情報発信にネットを使う。<br>・若者が見る議会に。 |
| ・お金・・・選挙に一体いくらかかるの？<br>　　・・・生活できるの？<br>・家族を養わなければならない←理解<br>（特に女性は、家族に反対される。）<br>・議員は遠い存在<br>・何をやっているか分からない。<br>・議員になるには？なり方が分からない。<br>・女性がいない。ロールモデルがいない。<br>・発信はしているが、届いていない。<br>・「頑張ってねー」　他人事<br>・一般市民には、「遠い存在」<br>・ネット、クチコミの力 | ・お金がかかると聞くが、何から始めたらいいのか分からない。<br>・立候補の手順、ポスター、人や車の手配、どうやって回るのか・・・選挙の方法が分からない。<br>・お金、組織があれば出られるが、一般の市民には無理ではないか。<br>・すごく選挙にお金がかかりそうだからやめる。<br>・女性にとって、議員は遠いところにいる。<br>・実態が分からないから飛び込めない。<br>・実態…ニュアンスは分かるが。<br>・市政報告を読んでも具体的な仕事のイメージが湧かない。 |

Ｄグループ（委員：牧田正樹、山田忠晴）

（報告者による報告）
・「目的意識」「価値観」を見いだせるかどうかだ。
・年齢に関係なく、女性も若者も、目的があれば立候補する。
・家族の理解が得られない。
・議員の家族となると、家族に対しても苦情がくる。
・選挙資金にいくらかかるか、ほとんど知らない。
・お金がなければ借金しなければならない。そこまでして出る価値があるか。
・任期がある。次も出られるのかという不安も。

（ホワイトボードの内容）
・家族が反対する。
・子ども４人いる。祖母も。生活が大変。仕事もある。
・家族の理解がないと難しい。
・選挙資金が足りない。
・いくらかかるのか？
・将来が保障されていない。
・落選の心配（特に若いと）
・（選挙は）１人の力ではどうにもならない。
・議員が人生の選択肢にない。
・「議員になって何がやりたいか」がないとだめ。（目的意識をもって）
・議員になって達成感あるか？
・若い人は自分中心の人が多い

市主催の勉強会はできないか？
（選挙の１年くらい前に）

目標・志があるか？
↑
価値観

**課題整理（ファシリテーター：櫻庭節子、記録：牧田正樹）**

・議員が自分にとって遠い存在 ⟶ 遠い存在
・市議のイメージは「大変そう」「面倒くさそう」「知識がないとなれない」
⟶ 大変そうなイメージ
・お金の問題（選挙資金、生活の保障（４年間しか保障がない）、家族を養えるのか）
・家族の理解
・地域の理解
・仕事、育児、家事が忙しい
・市議になる目標、志があるか。

**全体討論（ファシリテーター：滝沢一成）**

①遠い存在
・議員は知り合いの中にいない。
・興味がない。
・やっていることが遠い。→生活と遠い（生活に関係していないイメージ）
・議会には難しい様式がありそう。
・やり取りを聞いても、何を言っているか分からない。もっと分かりやすく。
・議会の必要性あるのか。
・何をしているか分からない。
・何の役に立っているか分からない。
・選挙の後、何もしていない。勉強していない。（選挙の時だけさわぐ。）
・先生と呼ばれるなど、敷居が高い。

近づけるには・・・
・時間や場所を共有する。
・問題に接する。
・市民の悩みに寄り添って動く、考える。
・何をしているのか示す努力をする。

②大変そうなイメージ
・選挙が大変そう。
・常に勉強しなければならない。
・陳情や要望に応えなければならない。大変そう。
・言いたいことが言えなくなる。
・いつも笑顔でいなければならない。
・市民に何を言われても耐えなければならない。
・家族に負担（苦労）をかける。
・プライベートがなさそう。
・新聞、マスコミにたたかれる。
・私的な意見が言えない。
・立場的に窮屈そう。
・勉強する人がなるべき。
・なぜ議員になっているのか？　→　やりがいのある仕事だと分かってもらう。

どうすれば・・・
・マニュアルを作る？

③家族を養えるか

報酬や定数に関わってくる。この会で結論が出せる内容ではない。宿題として引き取る。

④地域の理解

・地域協議会の仕事の中には、市議会議員の仕事かと思うこともある。

・市議が何をしているのか見えない。

・地域協議会から市議に立候補するという流れは出てくるか。　→今後、あるのではないか。

・まずは、地域協議会、ＰＴＡ、自治会などで活動し、それらの経験を経て、議員に繋がっていく。

・長年消防団活動に携わり、地域協議会委員を経て議員になったが、議員になって初めて、地域協議会の役割が分かった面がある。

・唐突に議員に立候補しようとすると、地域の反発がある。地域の活動などに参加し、うまく地域に溶け込んで、立候補する必要がある。

### イ　夜の部

**Ａグループ（委員：宮川大樹、櫻庭節子）**

**（報告者による報告）**

・生活のリスクを抱える。
・選挙費用に対する不安がある。
・100 万円以上は使う。莫大な金を使うのに、落ちるか、受かるか分からない。
・公職選挙法が難しい。選挙のルールが分からない。
・やっている人、知っている人がいて、一緒にやってくれないと。
・政党や団体がバックにいないと、なかなか厳しい。
・家事や育児との両立ができない。⇒女性参入の壁になっている。
・若い人にとっては、興味がない。
・若い人は、優先するものが違う。（労働環境が厳しいなか、生活優先）
・日々の生活が不安定で参入できない。

**（ホワイトボードの内容）**

〇生活のリスク（仕事をやめる）
　落選リスクを抱えてまで挑戦するのか。
　4 年後の保障もない。
〇選挙への不安
　選挙費用の不安（100 万円以上？）
　供託金なんて必要ない
　公職選挙法はわかりにくい。
　経験がないので、分からないことが多すぎる。
　ネットを活用したらいいのに。
　政党や後援団体、地域がバックアップしてくれないと無理
　選挙活動に時間がかかりすぎ
　選挙区が広すぎる

**市議になるリスクに対する不安がある。**

**地域の実力者のお墨付きが必要**

・若い人が政治について話すのが難しい雰囲気
・ネット民は新聞を読まない。
・家事や育児と両立できない感
・仕事に全てを注いでいて、余裕がない。
・若い人は優先するものが違う。（地域のことは後回し。自分の生活が一番）

**政治に興味がない**

・市議になってもやりたいことはできないのではないか。
・役人の方が強い。
・議会も封建的だ。
・ひとりでは変えられない。
・地域の実力者に引っ張られているのでは？

**議会不要論**

Ｂグループ（委員：山田忠晴、橋爪法一）

（報告者による報告）

・何をやっているのか分からない。
・市議の魅力が分からない。
・市議の仕事がよく分からない。
・Ｋ（くらい）Ｍ（むずかしい）Ｋ（かたい）
・くらい…揚げ足を取り合うような雰囲気、大人げない。
・むずかしい…専門用語が多くて理解できない。
・かたい…型にはまった人がたくさんいる。新しい発想の人が出てくると、イメージアップ
・誰がいるのか分からない。発信もうまくできていない。
・市議と市民の間に見えない壁がある。
　→自分には向いていない→リスクを背負ってまで出たくない→自分が出なくても誰かやってくれる。
・親しみを感じられるような議員、議会になる。
・現職議員が後継を立てる。

（ホワイトボードの内容）

・何をやっていいか分からない。
・お金がない。
・選挙の体験がない。不安
・現職が居座り過ぎ
・市議の魅力がわからない。
・保障がなく、リスクがある。
・生活スタイルを変えてまで市議になれない。
・ハードルが高い。
・地域の役員にも女性はいない。
・家族の理解が得られない。
・女性の声が反映されにくい。
・市議の仕事がみんな分かっていない。
・個人の能力がどのくらい必要か分からない。
・市議の権限が分からない。
・市議会の役割が分からない。
・応援してくれる人が誰になるのか。
・自分には向いていないと思う。
・Ｋ（くらい）、Ｍ（むずかしい）、Ｋ（かたい）だから避ける！
・市民と議員の間に溝がある
・会派はなくていい。
・公約の到達度が見えない。
・誰が市議会議員か分からない。

Ｋ＝揚げ足の取り合いで雰囲気が怖い
Ｍ＝専門用語を使いすぎていて難しい
Ｋ＝型にはまっていてかたい

**Ｃグループ（委員：牧田正樹、渡邉隆）**

**（報告者による報告）**

・市議の役割、メリットが分からない。
・上越は、地域活動、ＮＰＯ、地域協議会など、やっている人が比較的多い。
・自分たちのやりたいこと、実現できている人が多い。→出るメリットあるか？
・動機、モチベーションがない。自分の環境に満足している。
・なぜ議員をやっているのか。現職の動機が知りたい。
・地域のしがらみが面倒。色々なことを言われる。
・変な人じゃないと、出られない。
・ある議員は、奥さんに相談せずに出馬した。それくらいの人じゃないと出られない。
・現状、市議は違う世界の人という印象

**（ホワイトボードの内容）**

・自分の気持ち次第
・モチベーション（何をやりたいか）
} **メンタル（動機）**

・若い人、女性が言いたいことを言えない土地柄
・家族の理解　仕事、家庭、地域の理解が得られるか
・仕事を続けながら議員はできないのではないか。
} **環境**

・市議になる理由が分からない。（ならなくても目的を達成できる）
・何をやっているかわかからない。
・市議のメリットが分からない。
} **役割が分からない**

・ＮＰＯ、市民活動、地域協議会が活発
・市議ではなく、身近な人から頼る。
・市議は違う世界の人（なろうと思ったことがない。）

・お金がないと出られない。
・生活できるのか。（報酬）
・選挙の時の費用がいくらかかるのか分からない。
} **経済的**

**Ｄグループ（委員：小竹俊之、滝沢一成）**

**（報告者による報告）**

・女性は、子育てしながら市議の仕事をするのは難しい。
・子どもを大事にしていないと思われるのではないか。
・「かたい」「むずかしい」というイメージ。
・近くに魅力的な議員がいない。
・議員に頼らなくても、どうにかなっている。
・議員の必要性に疑問
・理想とする議員像がない。…だから、目指そうと思わない。
・「スーパー議員」が現れれば、目指してみようという人が出てくる。

**（ホワイトボードの内容）**

・冠婚葬祭が多すぎる。
・ライフステージでいっぱいなので余裕がない。
・リスクが高い（4 年に 1 回の選挙、将来が不安）
・周囲の理解が必要　応援してくれる人がいない。
・「むずしそう」、「かたい」イメージ
・任期が 4 年しかなく、将来性がない。
・職業としての魅力がない。
・給料が低い
・子どもをほったらかしにしている
・市町村合併で、どこから出していいか分からない。
・男尊女卑の差別社会―「女性が家を守れ」
・政治に興味がない。
・市議の仕事を知らない
・どうやったらなれるのか分からない。
・ベテランがベテランのための政治をしている。
・達成感がない（見えない）
・男の仕事をとるんじゃない　地域性
・子育て支援
・女性は余計なこと言うな
・仕組み作りがされていない
・地元に魅力がない
・魅力ある議員がいない
・やりたいことがあれば…
・議員を知らない
・議員に頼ることがない
・声が届かない。議員に言っても無駄、時間がかかるイメージ
・選挙が終わると顔を出さない。
・安定感、継続性に不安がある。

## 企画会議１班（ファシリテーター：櫻庭節子）

（報告者による報告）

市議の役割が分からない。

・議会だよりは量が多すぎて分からない。チラシを毎日発信する。

・お金をかけない選挙を模索する。

・立候補者が決まったら、すぐ選挙公報を出す。

・事前活動にも制限をかけ、活動にお金をかけない。

議員として生活できるか不安

・議員の報酬と出費をきちんと出すべき。赤裸々に示せ。そのほうが良い。

・家事との両立支援のため、育児手当の支給を。

若い人や女性が出られない

・地域協議会、ＮＰＯなどの役職に、女性や若者を就ける。

・勉強会を開いて若者を集め、一緒に議論する。→興味を持ってもらう。

地域の有力者の存在

・定年制を導入する。

（ホワイトボードの内容）

・市議の役割が分からない。（ＮＰＯや地域協議会でいいのでは？）

→市議でなければできないことを明確に発信する。チラシ、回覧板

・選挙のリスクが不安

→お金をかけない選挙、ポスター等の制限、公費負担の範囲を示す

ネットを活用（20 年待つ）

事前活動にも制限を掛ける

・議員として生活できるかへの不安

→議員の出費も公表する。

・政治に興味がない、魅力がない、ファッショナブルでない冠婚葬祭が多すぎる。

→議員報酬を発表する。

・家族の理解が必要。女性は育児、家事と両立できるか。

→家政婦、育児手当

・有力者中心の地域

→地域協議等で慣れる。勉強会、グループ等

定年制の導入（議会も含めて）

普段から若者や女性が参加するしくみ

・議員の報酬を上げて政策アシスタントを付ける。

## 企画会議２班（ファシリテーター：滝沢一成）

（報告者による報告）

⑴　市議になりにくい

・生活リスク。

・自分の力がどこまであるのか分からない。

・選挙に対する補助はあるのか。←ほしいわけではない。

・応援してくれる人は

・サポーター制度・・・議員を支える市民を議員自身が培う。市民と議員が一緒に混ざる。

⑵　ＫＭＫ　イメージが悪い

・「イメージを良くして」としか言えない。

・イメージアップは議員の努力次第。

・普段やっていることを示す。→業務マニュアルのようなもの。市民が仕事を理解する。

志をつらぬく

・家族、地域を説得する。

溝を埋める

・常に考えなければならない。

女性、若者の声を反映する

・ギラギラのおっさんが自分たちの論理だけでやっている（印象）

・イメージを払しょくするしかない。

（ホワイトボードの内容）

市議になりにくい

・金、生活リスク、能力

・選挙に対する補助金ない。←もらえるからといって出る人はいない。安心する第一歩

・出ても、応援してくれる人いないかも。

・将来性がない。（4 年に 1 回）

・報酬月額 44 万、年収 707 万円

・次議員の保障ない

・サポーター　議員になろうとする人－応援するサポーター

Ｋ（くらい）Ｍ（むずかしい）Ｋ（かたい）　イメージ悪い

・難しい用語でなく分かりやすい説明をする努力、分からない人の気持ちを考える。

・会派を無くして個人で動けば良い。

市議、市議会の仕事が分からない

・やりがいが分からない。

・議員の必要性？？？

・接する機会がない。

・分かる文章で市議会を紹介しては。

・業務マニュアルがない。

志を貫く

・家族の理解。（落ちたら、同収入を約束して出馬）

・周りの理解者、支持者、仲間を増やす。

選挙の仕方

・新人の人は特に。

・金のかかり方

女性・若者の声が反映されにくい

・地域でも女性・若者は少ない。

・町内会、地域協議会…女性の声とおらない。

・ギラギラのおっさんたちがやっている。

・声の大きなおっさん→あきらめ

魅力的な議員がいない

・市議に言っても無駄。

・選挙だけの人々

⑵　第２回

平成 30 年 2 月 19 日（月）に２回目の市民との意見交換を開催しました。

検討会における提言書案がまとまったことから、市民の意見を反映させ、より実効性の高い提言とするため、市民の意見交換会を開催しました。

平日夜の開催となりましたが、第１回に引き続き、市民の皆さんから示唆に富んだ多くのご意見をいただきました。

ここでは、その概要を掲載します。

【会場の様子】

### ⑴　会場アンケート

**ア　参加者　11 人**

**イ　参加者の内訳**

| | | |
|---|---|---|
| ①　性別 | 男性 | 9 人 |
| | 女性 | 2 人 |
| | 合　計 | 11 人 |
| ②　住所 | 合併前上越市 | 4 人 |
| | 13 区 | 6 人 |
| | 不明 | 1 人 |
| | 合　計 | 11 人 |
| ③　年齢 | 20 代以下 | 1 人 |
| | 30 代 | 2 人 |
| | 40 代 | 3 人 |
| | 50 代以上 | 4 人 |
| | 不明 | 1 人 |
| | 合　計 | 11 人 |

**ウ　意見、感想**

・議員の皆さんの考えが分かり、参考になりました。

・人材育成に関し、議員個人で後継を育てることが大切だと思う。

・インターン制度などは全国的に実績が上がりつつあるようです。当市においても早急に実施していただきたいと考えます。

・今回の提言は「現在の市議会・議員」の仕組みを基本とするならば、全てやるべきことだと思いますし、頑張ってやっていただきたいと思います。しかし、基本的に「現在の市議会・議員」の仕組みを少し手直しするだけで残ったままならば、残念ながら若者・女性議員が多く生まれることはないのではないかと思います。

・本日は素晴らしい機会を設営していただき誠にありがとうございます。この会が固定されてメンバーから脱皮してもっともっと日常的に行われてカジュアルに真剣に政治・市政を語れる雰囲気のある上越市であることを心より期待します。

・市民の“合理的無知”をどう打破するかがカギ。市民各自への別々のアプローチを考え、実施していく　＋　エキスパート（サポーター制度）を育てるのが大事

・今現在、自分はまったく興味を持たないことなので、私のような人間でも関心を持てるように改革をしてほしいと思う。

・市議の方が足を使い市民と触れ合えば問題が解決すると思います。

⑵　会議記録（抜粋）

Ａグループ　６人（委員：牧田正樹、櫻庭節子、渡邉隆）

提言書の課題

議員の存在意義を知ってもらう
ドキュメンタリー　　見える化を強化
（例：自分たちの考えを反映）
傍聴の時間割をしっかり示す
テーマを示す
意見交換会を重視（改革：テーマを設定したら？）
他町（飯綱町）の取組でサポーター制度等の活用
市民意識の高まり
「かけはし」に視察レポートを示す

議員個人の人材育成（後継）
議員の定年を促す（自分で辞める勇気）

会社員が議員をやれる方法（会社の理解）
サポーター：有償
政務活動費　上限制でアップ

女性フォーラムの有効性？
・既に関心のあることは活動
・得意分野

他市の取組を参考に

【報告（発表者:櫻庭節子）】
・若い人、自分たちの意見が取り入れられていると実感持てれば、立候補してくる。
・議員が動くことで、変わったことを見える化できる。
・傍聴したいけれど、何が審議されるのか分からない。簡単でいいので、何を審議するのかが書いてあると良い。
・飯綱町では、サポーター制度を通じて議員と一緒に仕事をし、成功した体験から議員になった例がある。前例もあるので、すぐに取り組んでほしい。
・視察レポートの発表は是非やってほしい。議員が何をやっているのか、しっかりと示す。
・しっかりと仕事すれば、報酬上げてもいい。しっかりとした仕事を前提に、政務活動費を支給

（後払い制）

・会社に残りながら市議に挑戦できる環境を。

・自分自身で後継者の育成を是非やってほしい。町内会でも同じこと。

・この提言を是非進めてほしい。

## Ｂグループ　６人（委員：宮川大樹、山田忠晴）

提言書の課題　強い意志を

1　市民と議会の距離

慣例ではなく、時代に沿って

やっていること→改善へ

やっていないこと→　新たな取組へ

情報の発信源を絞った方が良い。

このことをやっているのが、歩み寄っていて良い。

市民にとって情報が多すぎて、何を捉えたら良いのか掴みづらい。

SNS 等で若者、年配者には紙で

年代を分けて発信すべき

2　選挙

定数が適正か

定年制　目線（対象者）

マニュアルの作成良い

→たくさんあって分かりにくい。

分かりやすく、現場に即して作って

ほしい。

選挙ゲーム（人生ゲーム）

→楽しく、ゲーム感覚で

行政が手伝って

3　物理的課題

厚生年金等社会保障

政務活動費を透明化して市民と議会との

距離を縮める

専業、兼業色々いる。何が適正かを検討

活動によって査定して額を変えるべき。　差を付ける

→市民がやる。

サポーター制で

報酬上げるべき（広さを考えて）

4　とりまく環境

インターン、サポーター制◎　是非やるべき

モニター制△
「たたきあげ」を応援すべき
後継は良くない→ごうまん
川西（十日町）→年配だらけ→前回若返り
地域力があって、応援してくれる人が多い
人材育成の場が整っている。
町内会とかも政治離れが進んでいる。
町内に足を運ぶべき　→自助努力
地域で頑張っている人に出てもらう環境を

地域環境を整える
地域のやる気を上げる

5　女性・政治活動
女性が地域に入りやすい環境を
町内など身近なところの役員になれるように、男性の意識改革
女性フォーラム◎
アピールするのに良い。
県内全域から上越に集合するとインパクト大
クオータ制→町内会も含め、どの会でも女性の環境を

【報告（発表者:宮川大樹）】
・これまでの取組を改善する以上に、新しい取組を強調すべきだ。
・議員の活動によって報酬に差をつける。
・サポーターに活動を評価してもらう。
・地域が議員を育てる意欲を高める。
・女性が役員に入れるように、男性の意識改革を。
・「地域力」を高める。「地域に議員が必要、育てよう」という意識改革が重要だ。

## Ｃグループ　６人（委員：小竹俊之、橋爪法一）

提言書の課題

⑴議会の発信　話題性のある内容
テーマ別チラシ発行
⑵模擬議会の取組　Good！
問題のある課題　実際に行う
⑶意見交換会　かたい感じ　フレンドリーに
いいと思う。
⑷広報ＰＲの充実　良いと思う。どんどんやる
企業なら当たり前にやっている。
ゆるキャラ作るなど、突飛なことをやる。
動画、ユーチューブいいよ。小学生みてる。
どうやったら関心持ってもらえるかが大事
⑸土日、夜間議会　平日、土日どちらでも関心度
議会のあと「懇親会」
やらないよりまし
夜だったら来る
⑹インターン　関心ある人をどう増やすか？
サポーター　関心ある人にとっては、とってもいいこと。
勉強会

選挙はできるだけお金かからないようにする。　会社辞めなくていいように
何を持って適正（な報酬）とするか、仕事の内容とのからみ
議員定数　―　議員の活動見えない
政治塾　―　環境変わらないと参加できない
保育室　―　スタッフいる
同伴（親子）

「女性は政治に関わるな」を打破
市民と議員がやっていることをつなげる
市民と議員が一緒になってやる　→これを見せる

本当に、若者･女性を迎え入れる気があるのか。
市議が普段から若者･女性に接していないのでは。　市議の姿勢

【報告（発表者:橋爪法一)】
・この会に関して、若者や女性を迎え入れる気があるなら、議員が一人でも二人でも連れて来いというお叱りを受けた。
・議会主催の意見交換会は、堅いイメージがある。
・中高生、高校生向けの取組は大いに結構。フレンドリーに。
・発信について、他と同じことをやっても注目を集められない。上越はすごいことをやっていると注目されるような取組を。例えば、「ゆるキャラ」をつくる。
・中高生は、YouTube などの動画を見ている。活用を。
・どうしたら関心持つ人を増やせるのか、常に意識した活動を。
・選挙マニュアルの策定もいいが、そもそも、お金をかけない選挙に。
・女性議員を増やすための提言がいくつかあるが、根本は、女性が政治に関わるなという風潮の打破
・市民と議員が色々な活動を一緒にやり、繋がりを持つことが何より大切だ。

## ４．議員アンケート記録　（抜粋）

実際に立候補した人は、立候補を決意し、様々な困難をどうやって克服したのかを経験しています。「市議を目指しやすい環境」について検討するに当たり、その経験から学ぶことは多いと考えます。

検討会では、現職・前職市議を対象にアンケート調査を実施し、立候補に至った気持ちや初選挙の感想などを答えてもらいました。

ここでは、その概要を掲載します。

⑴　設問１
あなたは、どのようなきっかけで議員になりたいと考えましたか？

・前職や労働組合役員として、県民福祉や働きやすい職場づくりの経験を活かして、暮らしやすい上越市をつくりたいと思った。
・当市が持っている素材、可能性を引き出し、住んで良かったと思える街づくりに少しでも貢献できたらとの思い。
・元職が議員秘書だったので、政治の表舞台でやってみたい想いでした。
・前任者からのおさそいで。
・行政合併して 12 年経過する中で、中山間地域が、疲弊していくのが著しく感じて決断した。
・高校卒業後、自宅を離れて暮らしてきたことから、消防団にも入らず、青年会活動もせず、地域活動、地域貢献を全くしてこなかった。定年退職、再就職を経て、ふと、残りの人生を考えた時、体力と気力のあるうちに生まれ育ったふるさとへの恩返しの意味を含めて地域に貢献する活動をしたいと考えた。
・きっかけは、元地元市会議員から後継として出馬要請を強く受けたこと。
・共感を持てる若い議員がいなかったから。
・応援してくれる仲間と、家族の理解があったから。
・議会及び市政に若い意見を反映させたかったから（上越の次世代として）
・知人で議員をしている人がいた。
・５０歳を前に会社をリタイヤしようと考えていた。（一般企業は厳しい時代を迎えていた）
・もともと福祉とスポーツを通しての青少年育成活動には自分のフィールドワークとして強く関わっていたので、議員になったら更に何かできるのではないかと考えた。
・全市一区制がチャンスと考えた。（区から一人の選挙では、地域では難しく嫌だった）
・地元では自分達の住む地域から議員がいなくなるという危機感があった。
・上越市に女性議員が少ないという女性たちの声があった。
・地域の女性が多く参加しているある会議で、出馬したらどうかと言われてから考え出

した。

・居住区での市議会議員が辞職することから、当該区からの市議会議員不在を避けるために立候補の要請があったため。

・18 歳で東京に出た。もともと 50 歳には故郷に帰ろうと思っていた。仕事を約 25 年続け、故郷に帰ったらまったく違う仕事につこう（例えば農業や飲食店など）と考えていた。そんな時、故郷に一足先に帰っていた大先輩に、前職で鍛えたスキルを活かしてひとつ上越市をプロデュースしてみないかという提案をされた。いま思うと、自分の能力でまちを変えられるのではと思ったのは傲慢なことだが、その当時は、それだ！と市議会議員選挙に挑戦することになった。

・地元地域の要請

・教員生活の中で、一人ひとりを大切にし、すべての生徒の成長を見守ることをめざして努力し、教育条件や労働条件の改善をめざす運動にも取り組んできたが、力不足からなかなか思うような状況を作り出すには至らず、昨今の厳しい社会情勢の下、子どもたちがのびのびと育ち合い、豊かな人間性を身につけることへの手助けが、ますますしにくくなっているような気がしていた。そこで、学校の中だけの世界から視野を広げ、広い社会の中で自らの思いを訴え、多くの方がより安心して暮らせることをめざすことを決意し、市議会議員として新たな道をめざすことを決意した。

・村議会議員を１６年あまり務め、その折に最も大きな使命であったことは、特に重い負担になっていた国民健康保険料の引き下げについてだった。こうした村民負担の軽減をはじめ、村の環境保護、村民生活擁護のために、議会の場で村民の声を代弁すること、村民の声を村政に反映させることのために、議員になることを決意した。

・地区をはじめ諸団体の役員をしており、当時、町議会議員と何度か意見交換を行ったが、旧態依然の感覚の議員が多く、改革が必要と考えた。

・自分・人の思いを伝えたかった。

・党から話があり、議員になった。

・40 歳になったら、自分の残りの人生は人様のために使おうと思った。

・当時、政治不信が全国的に広がっていて、「いつか誰かを」ではなく「いま自分が」しかないと思い決断した。

・政治に興味があり、地域の為に自分で役に立つことがあるのではないかと思った。
若いころから色んな役職を経験（同窓会・青年会・PTA・国政、県議、市議の選対役員）する中で、議員に出馬したくなった。

・地元先輩議員の方が県議会に出馬し地域枠があり、何とか当選できるのではないかと思い出馬した。

・最初は町議会議員を務めており、地域に代弁する議員がいなくなったから、立候補を決断した。

・周りからの強い要請と長年単身生活で家を空けており、周りの人からの厚情にこたえるため。

・生まれ育った街を次の世代にしっかりと渡したい。歴史と文化を大事に守りたい。

・山間部に生まれ育ち、家は貧しく、出稼ぎや炭焼き、土方などをして生計を立てていた。また、雪が多く降ることから、雪にも苦しんできた。大学で様々なことを学ぶ中で、自分の家を含め、ふるさとのみんなが元気に明るく暮らせるようにしたいと考え、そのためには政治を変えなくてはと思い、故郷に戻ったら、議員として頑張ろうと決意した。
・幼き頃から議員を目指しており、それが 45 歳でチャンスが訪れ立候補した。
・このまちの最高権力者に市民の想い、考え、声を代弁するため
・様々な政策提言を市長並びに理事者に訴えたかった。
・このまちの有り余る歴史遺産、資源を生かす提言をしたかった。
・役所のいかにも役所的、やり方、考え方に厳しく民間経営のシステム、考え方を訴え改善する方向に向けたかった。
・町議時代は、各集落に議員がいたが、当集落は長く議員のいない空白区であった。当集落の有志が奮起し、私を議員候補に推薦したい旨の要請があった。熟慮の末、これに応え初挑戦を決断した。
・この地で生まれ、地域の人との係わりの中で育てていただいたこと。
・地域の皆さんの強い熱意と期待に応えたいと考えたこと。
・結果として、ささやかでも地域や町の発展のため、力になること。
・地域振興 NPO に所属していたが、所属年数が増えてきたため、地域と組織の活性化のために独立を考えていた。たまたま市議会議員の選挙が近づいていたので、NPO を退職し、立候補した。
・45 年前に政治変革の動きの激しい時代で、身分差のない生活ができる社会をめざして、働く人たちも安心して家庭生活を送ることができるように改善してほしいと考えた。当時、公害問題で環境汚染されたり、土地の乱開発が無計画に推進されることに市民のいのちや暮らしを守る政治確立が大切なことだと感じた。地方自治を住民の手にとりもどそうと、国、県、市の行政の連携を強めてほしいと思った。
・平成 17 年 1 月 1 日に 14 市町村が合併となり、首長も議会もなくなり、町の現状や内容の分かる誰かが市議会議員として出ていないと、大きな上越市の中で埋没していってしまうのではないかという危機感から、出馬する意思を固めた。
・県議に転出された前町議の後継として指名を受けたことが直接のきっかけ。また、平成 17 年、合併による市議会増員選挙に引き続き立候補したのは、編入合併による中心部優遇・周辺部の切り捨てなど、懸念事項への対応をしっかりとろうとの自分なりの志を固めたこと。
・党より推薦の話があり、当市の発展に役立つ事ができればとの思いを固め出馬した。
・子育てをし始めて、行政的にいろいろな問題（男性を育児の主体として見ない施策や障害児を差別・選別する教育や市立幼稚園の定員削減など）にぶつかり、そのことで市や教育委員会、さらには議会の姿勢や対応に疑問や不満を抱いたことが直接のきっかけ。一緒に取り組んでいた子育て世代のお母さんたちの声援もあり、誰も（行政も議会も）頼りにならないなら、自分で乗り込んで行って改革（課題解決）するしかな

いかと考えた。

⑵　設問２
出馬を決めた前後どんな障害がありましたか？またそれをどう乗り越えましたか？

・家庭責任（家事など）を果たす時間がなくなってしまうのではないかという不安。
・収入が減り、子どもが高校や大学生の中でどう生活していくか。
・後援会立ち上げまでの間、市民の方々の理解を得ること。
・地元町内会や市民の方々の心温まる支援。
・地域からの支援を頂くのに苦労しました。地道な活動を通じて地域の雰囲気を向上させて、町内推薦を頂いた。
・家族に理解して頂くこと。
・家族、親族、の理解、後戻りできない覚悟！
・選挙（投票日）3 か月前の急な出馬表明であったことから、後援会組織が全くなく、一から十まで、すべて手探りの状態で選挙活動をせざるを得なかった。選対本部長（後援会長）と会計責任者など立候補に必要な役員のみを選任（依頼）し、幹事長（事務局長）を候補者が兼ねるなど実務的な業務は候補者自身が行った。
・家族の同意が一番難しかった。
・家族の理解を得るのが一番大変。落選したときどうするのか、収入面でどうなるのか、子どもが 3 人いたので大きなハードルとなったが、議員とサラリーマンを両立することができたので、その課題がクリアーできた。
・初めての立候補だと、初期投資のお金がかかる。（立看板作成、街宣車の看板、事務所用品などなど）
・両親と同居であったので、ローンなど無かったので対応できたが、条件がそろわないと厳しい。当選後もそれほど収入が多いわけでないので、借金も厳しい。
・会社がなかなか退職を認めてくれなかった→自分で会社に行かないと覚悟を決めた。
・仲間からも子育中で無職になるので無謀だと心配された→覚悟は出来ていると説明した。
・親戚からは反対もあった→頼らない→応援してもらえる人だけから応援をしてもらった。
・地域として応援はもらえなかった、挨拶もさせてもらえなかった→地域を一件ずつ挨拶した。
・国会議員、県会議員など挨拶していないと指摘された→指摘されて挨拶に行った。
・私が活動していた団体からも応援はしないと言われた→承知したが挨拶はした。
・供託金も含め、選挙は何もわからなかった→選挙の本を買って、その通り実践した。
・応援してくれる責任者が決まらなかった→親戚の一人をやっとお願いした。
・応援してくれる母体として、①女性のサークル②同級生グループ③保守政党④地元の人たちを考えた。①と②はすぐに応援の表明をくれたが③の保守政党は、国会議員・県議会議員からは応援を表明していただけたが、地域支部がまとまらなかった。地域

が一般的に考える議員像と私が一致しなかった。性別・年齢・地域への貢献度、全てにおいて地域の常識的な議員候補者像と私はかけ離れていたと思われる。数か月間、応援を求めて地域の有力者を回ったが、結局大きな協力体制を作ることはできず、④の地元の皆さんの力を借りて見切り発車した。

・家族は反対であったが、要請も断りきれなかった。
・30 年以上故郷にいなかったので、知り合いといえば親戚と同級生くらいしかいなかった。そのころで 1500 票無いと入らないと言われ、どうしたものかと思案した。変わり種として話題をとる戦法と、徹底して地元に食い込む戦法でやっていこうと決めたが、当時地元は、近辺のベテランの市議がふたり仲良く票を分け合っていた状況で、「半年前の参入では遅い」と言われた。
・家族の反対、特に妻の反対があったが、十分な話し合いや周りの説得によることで納得を得る。
・最も障害になったのは、退職の時期で、選挙が４月下旬であるため数ヶ月前から準備に専念することを考えると、年度途中での退職が必要であった。
・当面の生活保持が課題となったが、幸い連れ合いの収入や少しの貯え等でしのぐことができた。なお、政党として選挙活動を支えるほか、応援も多くのボランティアでまかなうことから、選挙費用の捻出という点では障害はなかった。
・最も障害になったのは、家族の反対。自らの暮らしを半ば顧みずに、村民のために寸暇を惜しんで相談に乗ったり村政とのつなぎをしたり論戦に備えたりという活動なので、家族とのゆったりした時間が犠牲になることがある。家族としてはそうしたことを心配しての反対だったのではないかと思う。また、議員は地域住民やいろいろな組織との関係も密になり、片時も気を抜けない面があるので、そうした面でのストレスを予想したという点もあると思う。
・選挙資金や生活面で障害があったが、借金をすることができた。
・家族の反対があった。特に子供から『やめて！』という強い反対がありましたが、何とか説得した。
・30 代の終わりごろ市議補選があり、親せきに相談に行ったが「ダメだ」と言われた。家族や親せき、友人や地域の方にも迷惑な話だと思う。
・知名度も選挙資金も頼る人もいない。すべてゼロだった。
・いまだに乗り越えてはいない。あるのは信念だけ。落ちるのも覚悟でひとり一人にお願いしていくよりなかった。時間をかけてやろうと覚悟した。
・妻の猛烈な反対があったが、数週間話し合い、理解をしてもらった。
・長男に会社経営を任せるよう承諾をした。
・過去の政治色からの脱却をしなければいけなかった。
・脱却後、地元後援会の立ち上げで多くの皆様から協力が得られた。
・選挙自体が分からず、まったくの手探りであった。それと今もそうだが、人口の流出減少が激しく、今まで選出してきた地域だけでは当選することができず、支持者の拡大に苦労した。

・一番大変だったのは、選挙の実施時期及びその前段階の大事な時が農繁期と重なったこと。秋の農作業をしながら選挙準備をする必要があり、稲刈りやサイレージづくりなど、家族が頑張っただけでなく、党員や友人等から手伝ってもらい、何とか困難を打開できた。
・やはり何と言っても金銭面。それと選挙には付き物の地盤・看板・カバン。地盤と看板は当時の市長から支援して頂いた。金銭面についても家族の支援で何とかなり出馬できた。
・障害は何もなかった。自分を信じ強い信念のみで出馬した。
・街頭で自分の政策を訴え続けることに喜びを感じ、楽しかった思い出が残っている。
・勤めていた会社を辞めることになった。（勤務した会社には、休暇要員の配置がなく、議会公務で休暇を取得すると、会社の同僚に大きな迷惑と負担を強いることになる）
・家内の働きとアルバイトなどで生計を支えた。
・１ヶ月以上の引き継ぎを行ってからやめようと考えていたが、勤務先に自分の判断を伝えた際、組織の地域との関係などの事情により早急な退職を求められた。
・選挙に向けた資金づくり（当時はポスターも自動車、ガソリンなども公費でなく、自己負担、政策リーフ、選挙事務所の借上げ、乗員者などの食事代などの費用準備に苦労があったこと。）ボランティアの協力もあり、カンパなどで支援をいただくために知人や親類まで迷惑をかけたこと。本人が体を張って動くことが周りの人が動ききっかけとなった。金のかからない選挙といえども、若い時だけに、最低限の費用の調達は困難がつきまとった。
・今まで役場職員だったので、公職選挙法に基づく選挙事務は経験があったが選挙戦は経験がなく、どうやって選挙戦を展開すればよいのか大変困った。しかし、後援会の支持者等から第一歩から指導してもらって乗り越えてきた。
・最大の障害は家族、とりわけ配偶者の理解と協力が得られるのか。また、職場との 2 足のわらじは大丈夫かなど、選挙資金や選挙体制づくりより、身近な理解者を得ることと、生活の場であった職場同僚への理解を得ることの方が高いハードルであった。幸い、話合いを重ね双方の理解が得られた。しかし、17 年合併増員選挙のときはまだ現役世代でもあったことから、職場を辞し、退路を断って出る勇気が必要であった。今振り返ると大きな賭けのような決断だった。
・義母とともに同居していた義父の介護をしていた。時間に対してのこだわりがあったため、対応に苦慮したこともあった。
・今から 30 数年前の社会・政治状況は、地方においても、「自民党」対「社会党」、「保守」対「革新」の枠組み、いわゆる二大政党の 50 年体制や旧態依然の政策（行政）が「常識的」で、私の唱えた「地方議員の自主自立（律）性」、(「政党政派に偏らない真の無所属（＝無党派・市民派)」）という立場や先進的政策をスローガン化した「自然・自治・共生」という主張は市民になかなか理解されにくかった。
・いわゆる３バン（地盤、看板、鞄）とは無縁な境遇であり、かつ、当時は全く奇異に見られた「育児を担う男性（主夫)」という立場だったので、覚悟して進んだ道とはい

え、言わば時代を先取りする主義主張に対する「世間の常識」という壁が「障害」としてのしかかった。

⑶　設問３
初選挙の感想を教えてください。

・最初の選挙は落選したが、四面楚歌の状況の中で、ほとんど無援の若造が 1000 票という予期せぬ支持を得たことは、市民の中に大きな驚きとして迎えられたし、認知度も信頼性も格段に上がり、次に向けた確かなステップとなった。そして、2 回目の挑戦では、対抗馬をぶつけるという、より危機感を持った強力な包囲網が敷かれたが、それをも打ち破り、前回の約 2 倍という得票数で当選を果たすことができた。最年少かつ期数の浅い議員が、一定の影響力を持ちつつ成長でき、市政に貢献できたのも、初期の地道な実践を積み重ねたからであり、志と政策実現への思いを真摯かつ愚直に貫いたからだと思っている。
・出馬を決意したものの、議会は男性社会との思いが強くあり、その中で臆することなく自身の考えをしっかりと述べていけるかどうか不安な思いがあった。しかし、当選後は逆に少ない女性議員の一人として、また、女性の代弁者として取り組んでいこうとの思いに変わった。選挙は自分一人でできるものではなく、多くのスタッフの方をはじめ、ご支援をいただいた多くの方に感謝の思いで議員活動をスタートした。当選後は女性の方から様々なご要望やご意見をいただき、市内の女性の方から匿名でご要望をお手紙でいただいた事もあった。
・選挙の洗礼を受け当選したということは、自分の努力も当然ながら、多くの支援者の力によるものだということに改めて感謝する機会となった。故に、期待に応える気持ちを強く持たなければという意識も生まれる。また、みんなと一つの目標を成し遂げたという連帯感もあり、挑戦して良かったと感じたことを鮮明に覚えている。
・当時合併特例で１３区ごとに選挙が行われた。私の区では３人で争ったが運よく当選することができた。ところが一人の落選者から、当選無効の異議申し立てを選挙管理委員会に出された。申し立ての理由は５項目ほどあったが、市と県の選挙管理委員会ではいずれも申し出を棄却したが、この間選挙の供託金も返してもらえず、私としては非常に後味の悪い選挙であったという印象が残っている。
・昭和 47 年 4 月の上越市第 1 回選挙は、今から 45 年前の高田・直江津両市の対等合併による選挙であった。住民直接請求で合併の是非が問われての合併であったが、初出馬し、時代、世代交代を訴えてたたかった。定数 36 人に対して 50 人が立候補した激戦であった。私にとっては、義理人情にとらわれない政治が重要で、古い体質の名誉職的な議会改革の必要性を訴えた選挙でもあった。
・選挙経験者からの指導はあったが、どういう結果につながっていくのかは全く分からない状況だった。やると決めたことをコツコツとこなす日々を過ごした。
・父が選挙の直前に亡くなり、祭壇のある自宅が選挙事務所で、地域の皆さんや同年生

が一丸となって、燃える戦いをしていただいた。当選の喜びは、爆発的だった。凄かった。忘れられない。

・多くの友人、知人とこのまちの未来の夢の実現に共鳴して下さった方が大勢集まって応援してくれたことの驚きと、期待されている責任を強く感じた。
・右も左も分からず、只、若さで突っ走ったと言う感じ。当時は、結構体力もあり、地域は全所帯政策等を訴えて回った記憶がある。やはり若さですね！若者よ、挑戦しなさい。
・初選挙はもう 40 年も前のこと。１週間の選挙運動はきつく、声がかれた。支持をもらうためには気を使うことが多く、選挙をたたかうということはたいへんだと初めて知った。でも、党や青年団などの仲間、そして高齢者の方などから大きな期待を寄せていただき、やはり立候補して良かったなと思った。
・沢山の人に支えられ只々感謝！！素晴らしい街がすぐ出来ると思った。
・人手と費用の必要性について後援会幹部と苦労した。
・先輩の意見を聞きながら初選挙を戦った。街頭演説の大変さに驚いた。家屋のなかで話をするのとは違い、大きな音量で不特定多数の方に訴えるのは初めてだったので、戸惑った。
・町内の皆様が一丸となって押していただいた。知らない分、怖いものなしであり、がむしゃらで、戸別訪問をした。後援会の皆さんも全く私と同じで、がむしゃらで応援をし、親戚、友達にと、声かけをしていただいた。
・楽しかったし、うれしかった。結果は落選したが、たった一人で始めた「思い」が、ほとんど理解してもらえなかったが、大きな広がりとなって、まがりなりにも選挙ができ、票になったことはうれしかった。すごいな～！これだけの方から名前を書いていただいたなんて。というのが正直な感想。
・先輩（前議員）からのアドバイスがあったので、不安はなかった。
・自身に託した下さった方に感謝。
・無投票当選であったため、選挙戦は１日だけで覚えていない。
・多くの村民に支えられ、同時に期待されているということを感じた。
・選挙を通じて、地域のみなさんとのつながりが、より深くなったと感じた。
・村民の皆さんの願いを、そのまま村政に反映させることをめざす選挙だったので、やりがいある選挙だった。
・政策などは訴えれば訴えるほど、多くの皆さんの共感を得られることを実感した。
・選挙活動を通じて、多くのみなさんに支えられ、同時に期待されているということを感じた。まさに「市民に負託された議席」であることを実感した。
・市民のみなさんの願いを、そのまま市政に反映させることをめざすという、まことに単純かつ明快な、議員の本来の仕事をするようめざすことが選挙活動そのもので、非常にやりがいある選挙だった。また、政策などを訴えれば訴えるほど、多くのみなさんの共感を得られることも実感した選挙だった。
・市民のみなさんの暮らしを十分に支えられるような市政になっていないことを、日々

実感する選挙でもあり、一日も早く議席を得て、市民のみなさんの思いを市政に生かさなくてはとの感を強くした選挙だった。

・多くの市民のみなさんに政策等を訴える中で、上越市の広さを実感しつつ、活動の大変さも身にしみた。
・不安の一言
・前職での最後の仕事が３月までずれ込み（実は４月に入っても終わらず)、東京と上越を週に一回二回とクルマで往復する超ハードなスケジュールだった。深夜に走り、朝一番に路上で手を振った。50 歳と若いからできた。地元にいない私を選挙スタッフがよく支えてくれた。
・よくわからないうちに終わってしまった。
・女性達の応援が著しかった。私は他のことはなるべくせず、戸別訪問のどぶ板をひたすら続けた。一軒一軒回る中で、地元の方が出した手紙と私の訪問が重なったりして、多くの方が応援してくださった。どぶ板を続けることで、「自分を少しでも知ってもらえれば支援者を増やすことができる」と確信した。この点で言えば、当確ラインの得票は、新人でも情熱を持ち、時間さえさければ地域を回って取ってくることができる数だと感じる。
・どこから、あんなに票がでてきたのか、当選できてびっくりした。
・家族が一番、理解してくれた。
・最後は仲間が支えてくれた。
・感謝の気持ちでいっぱいだった。
・最後は地域の皆さんも応援してくれた。
・地域のためにがんばろうと思った
・期待されていると感じた。
・体力がいると思った。
・人前で話す力不足を感じた。
・選挙で知らないことがたくさんあると思った。
・企業、各団体、地域から推薦、応援をしてもらえなかったことは大変だったが、その反面しがらみがなく、自分の思うように活動できたことは良かった。
・初選挙に必要なのは「勇気」。本当に必要なのは二期目以降の選挙。
・合併前の市町村単位の意識が根強く、全市一区制の選挙は大変。
・多くの協力者の元で選挙活動が行われたことへの感謝。
・選挙は難しい。金がかかる。支援してくれると思った人が逃げていくし、反対にあてにしていなかった人が支援してくれる。複雑な人間関係の中でもがき苦しんだ。
・貯金が底をついた。
・本人は当たり前だが、家族が市民から色々とプライバシー行動に注目や中傷されるのが大変だ。（本人親族すべて）
・選挙の期間が長く感じた。
・地域性の重要さが認識できた。

・厳しい戦いであったが、周辺に惑わされることなく、初心を貫けたことが印象に残っている。
・選挙準備がたくさんあり、大変だったこと。

⑷　設問４
議員になって良かったこと、悪かったことはなんですか？

・市民に託された分、それが力となって市政へ反映できる。
・市民の方々の意見等を踏まえ、市政の問題や課題を改善するべく将来を見据えた政策議論や提案を行えること。
・私的な時間があまり取れなくなった。
・地域の諸課題について情報が集約しやすくなったこと。
・まだ答えが出ていない。
・まだ実感出来ていない。
・報酬のわりには出費が多い。
・人とのつきあいが格段に広くなった。相手の痛みを自分の痛みとして謙虚に話を聞くことの大切さが分かった。
・プライベートがない。付き合いに金がかかる。
・議員になってからは、自分は公人であることへの負担が多く感じた。
・議員になって「いい思い」をしようと思ったことは無い。
・自分の目指した制度や改革が実現できた時の充実感は、味わった人しかわからない。
・とにかく「懇親会」が多い。金銭面と身体面の両方で厳しい。
・自分で選んだ道なので後悔は無いが、なぜか議員を敵対視する人が多い、そんなに嫌わなくてもいいのに…。
・会社の時と違って、自分で責任をもって行動できるので、視野が広がった。
・市民の皆さんからの意見が、前へ進んだ時は、やりがいを感じた。
・提案したことが実現した時は喜びを感じた。
・たくさんの人と出会うことができ、人脈が広がった。
・賛成しても言われ、反対しても言われ、どちらにしても批判される。
・自分の時間がなくなった。（家族、仲間、地域の活動に制約ができてしまった。）
・挑戦して勝てたことで自信につながった。家族がより強く結束した。
・日頃考えていたやりたいことを市議としての政務活動費でやれるようになった。
・今までは何か言っても相手にもされなかったのに、言いたいことを言って、聞く耳を持ってもらえるようになった。
・市政に直接かかわることができること。
・市会議員がこんなことをしていいのかという、落ち着かないプライベート。
・それまでの仕事と全く環境が違い新鮮だった。５０を過ぎて「新人」というのも、なんだか人生二度目を生きているようで面白かった。
・収入が激減し、金銭面での人生設計が大きく影響を受けた。市議会議員の報酬がいく

らかを本当の話全く調べないで飛び込んだのだから自業自得だが、入ってみてその安さに驚いた。

・旧態依然としている議会を見て、このアナクロニズムは何だろうと戸惑った。知っている議員もいなかったので、まず一人でやろうと決めた。もうひとりそういう新人議員がいて、二人とも当時の議長に呼び出され「どこかに所属するか、議長預かりという形にしたい、それは他会派の意向でもある」と言われ、二人して突っぱねた。風当たりが強かった最初の一年であったと思う。

・市職員でもあったことから、市政に対してなかなか物が言えなかった部分があった。特に所管以外の件に関しては全くと言っていい程であったが、今は色んな面で市政に関与できることがうれしい。

・365 日受け身体制があり、個人の時間が調整しにくい。

・市民のみなさんの思いを直接市政に伝え、生かさせることができるようになったことが、最大の「良かったこと」。それ以上でもそれ以下でもない。ただ、これまでの長い教員生活の中での、授業などの子どもたちとの直接的なふれあいの場を持てない立場になったことが、少々残念なことではある。

・地域などでの多くの市民のみなさんとの関係も増え、繋がりが深くなって暮らしの願いをより深く把握できるようになった反面、儀礼的な面での負担が増えたというつらさもある。

・村民の思いを直接市政に伝え、生かせることができるようになったこと。

・住民負担の軽減をめざすことが自分の課題だったが、それをある程度実現させることができた際、村民のみなさんの笑顔に囲まれたときには、議員冥利に尽きると感じた。

・政策をより広い村民に訴える活動を進める中、力不足もあり、十分に主張を理解していただけないことがあり、それが少々つらいこと。

・発言力が増し、地域の要望にも答えることができた。

・合併後は、議員の存在感が薄くなったような気がする。

・思い、考えを伝えることが出来た。

・常に金銭的なことが大変である。

・長年新聞記者をしていたので、助かった。

・公職としての責任を重く感じた。

・少しでも多くの方を「幸せにしたい」、そのためには、人から話を聞いてもらえる立場にならなくてはならない（幸せは個人の感覚、できることはそのための環境づくり）、と思い議員になった。一市民では聞いてもらえないようなことも、理解や実現はともかく、言えるし、聞いてもらえる立場になった。

・議員になって悪いことはないが、選挙に出るにはやはり家族にとっても負担は大きいし、常に他人の目を気にしなくてはならない点では大変だ。議員本人より、家族にとってはいいことは少なく、悪いことばかりかもしれない。

・自分の主義主張が、行政にいえる事。またそれがそれなりに実現をしていったこと。

・妻に対して苦労をかけ続けてしまったこと。

・住民の困っていること、または要望を、行政に訴えていくつかが解消されたり、要望が実現することです。
・要望の実現で喜ばれたこと。
・多くの人に面識を得たこと。我慢強くなったこと。
・必要以上に自分を殺すこと。
・議員に限らず、世のため、人のために力になれたと実感できるときは幸せを感じる。行政課題の解決だけでなく、個人的な相談を含めて、自分が一定の役割を果たせたときは、とてもうれしかった。「議員になって悪かったこと」はないが、自分の趣味や家族サービス等に使える時間が制約されることがある。
・理事者側と丁丁発止で渡り合えると言う事は魅力的である。
・誹謗中傷もあり、年々考えさせられる。
・民主主義であり、多数決も分からない訳ではないが、少数意見にも耳を傾ける政治が望ましい。
・世の中の不条理や市民にも市政、県政、国政の大切さと選挙の大切さを訴え、市民の政治参加を助長できたこと。
・多くの市民とふれあいが容易で、生活に密着した問題などを共有できること。
・その共有した問題などを行政に直接質し、または反映ができること。
・努力次第で、地域社会を改善できる喜びがあること。
・「やって、出来て当たり前」という市民の議員を見る目に重圧がある。
・議員本人はもちろん家族（配偶者）まで厳しい目線が注がれる。
・今までは関係する地域が、ほぼ上越市の西部中山間地域だけだったが、あらゆる地域と関係をもつことにより、市全体の構造や仕組みが把握できた。
・所属する常任委員会での取り組みや、市外視察により、多くの問題や知恵を知ることができた。
・前に向かって何かを取り組んでいけば、予算が少なくとも必ず解決に向かっていくことを感じた。
・当時 13 区全体に「地域事業費制度」というものがあり、区ごとに投資できる普通建設事業費が決まっていた。この中で中学校の改築が最大の事業であった。合併後いち早く取り組み、のちにこの制度はなくなるのだがその前に完成することができた。
・今までは議会が政策条例を制定するなどということは考えられなかったようであるが、議員在任中に２つの条例に深く関わることができ大きな喜びとするものである。
・大変交際範囲が広くなり議員を辞めた今でも依然として切り離すことができず、冠婚葬祭等には非常に苦労している。
・自分の考え、政策提言などが予算や施策に反映されたときは、市民の声を活かすことができた喜びを得られる。また、ニッチの部分で悩んでいる市民の声も届けられた。あらゆる層との交流の場も広がるなど、人間的成長も大きかったように思える。議会においては意に反する部分が決められたことを除き、議員になったことで悪かった記憶はほとんどない。

・当市の財政状況をはじめ、福祉、教育、産業等々当市の状況を詳しく知ることが出来た。また、（他市への視察は不要ではないかとの意見もあるが、）視察により現地の状況を直接学び、当市にいかされていることもある。議員となり、当市と他市との比較ができたことは良かった。
・多くの市民の方とお会いでき、様々なご意見を聞けたことは良かった。
・議員になってから、「先生」と呼ばれることに大変、抵抗があった。私自身の中には「議員は先生ではない」との考えがあり、当初はそう呼ばないように近い方にはお話ししていたが、そのうち、いちいち説明するのが面倒になりやめてしまった。
・自らの思いを制度政策実現や行政のチェックを通じて少なからず実現できたこと、引いてはそれが世のため人のために貢献できたのではないかと感じていること、そして、それは結局、自己実現に他ならず、自らの人生を振り返り幸福だったのだと今思えること、だと思う。
・半面、自らや周囲を省みず、「世のため人のため」とがむしゃらに進んできたことのツケが、今大分来ているのではないかと感じている。私自身は健康面で、そして、経済面、生活面、精神面でつれあいをはじめ家族に多大な負担と迷惑をかけてしまった。１回しかない人生。取り返しが付かないことですが、これから少しでも埋め合わせができるよう精進していきたい。この悪いことは、全ての議員に通じることではないかもしれない。やり方によっては、あるいは能力によっては、回避することができるかもしれない。しかし、やはり議員は言わば個人商店であり究極のサービス業だということから考えれば、「人並みの生活を送るにはどうしたらよいのか」という点で、多かれ少なかれ心してかからなければならないことである。

⑸　設問５
どうすれば若者や女性が市議会議員を目指しやすくなると思いますか？

・議員との意見交換会などを行う。
・政務活動費の増額（または会派への政務活動費を個人に一定配分する。）
・会社員と同様に厚生年金への加入が必要。（会社に勤めている場合は収入の多い方を算定基礎とする。）
・報酬の増額。（現状の報酬では子供を大学まで行かせることは難しいのでは）
・女性は、家族の理解を得ることが中々難しいと思われるので、女性議員の必要性の啓発活動が必要では。
・高校・大学などで、地域における議員の役割や必要性などを教える機会を設けてもらうことも必要では。
・施行時特例市中、最低水準の報酬である現在の状況と合併と議員数削減の中で１人の議員にかかる負担が大きく増えたことを鑑み、報酬を施行時特例市平均まで引き上げる適正化を求める。

・議員としての仕事の成果が目に見えにくいことから、何をやっているかわかりづらいと思う。メディアを利用し、議員の仕事紹介や今月の予定など、みなさんに積極的に伝えていく。
・個々に感じ方が違うと思うが、議員の仕事に魅力や、見合った報酬や保証が担保されたらと思う。
・議員に対する市民の意識改革。
・議員の待遇改善と生活保障制度を確立すること。これができないと生活に余裕のある人や事業収入が見込める人以外に議員を目指そうとする人が出てこない。結果的に定年退職後や自営業の立候補者が多くなって、高齢男性中心の議員構成になってしまう。
・社会の構図が自己主義の強まりを見せる中で、若者だけでなく一般の人ですら議員を目指すことは難しいと感じる。
・議員になっても生活、特に子育てが出来る仕組が不足している中では、他に安定した収入がない限り、現在の仕事を投げ出してまで挑戦する人は少ないと思う。
・地方議員、特に子育てなどで一番お金がかかる時期に議員に立候補するのは、ハードルが高い。議員と副業がスタンダードという認識が必要。もしくは、政務活動費を無くし、議員報酬の値上げが必要。ただし、報酬が上がると比例して責任も大きくなる。
・女性をひとくくりにするのは無理がある、定年退職後の世代、子育てが終わった世代、若い世代で状況は変わってくる。
・若い世代は、行政サービスに関わる機会が少なく、問題意識が醸成されにくいのではないか。
・魅力ある報酬（報酬のアップ、だめなら任期ごとの退職金支給）
・議員だとローンを断られた。子育て世代は住宅ローンや教育ローンが必要で、銀行から借入の実行ができないと厳しい。だからそれに見合う報酬が必要である。
・福利厚生の充実（厚生年金へ移行）※国民年金では、将来の保障も心配
・選挙にはお金がかかるという固定観念を払しょくする。（節約選挙を心がける）
・選挙をお金や人手をそれほどかけずにやれるように工夫する。（候補者の持ち味が一般市民にも見えるようなメディアを使った選挙の在り方など）
・議員報酬を上げたり、年金制度を設けたりして、議員専従でも家族と生活していける保障をする。
・女性の参政、クォータ制度を実施する。地域社会の常識が変わるまで待つのではいつまでも変わらない。女性が加わることで会議が進む、運営が良くなる、自治が向上するという事を事実として実感してもらうしか方法はないだろう。
・経済的に厳しいと思うので、安定した経済環境を整えることではないかと思う。現在行われている意見交換会のように、市議会が若者や女性と接触する場を増やし市政に意見が反映されていると実感してもらうことが必要と考える。
・報酬のアップ。自身の子が大学などに進学したいとなったとき、いまの報酬ではよほど節約しないと行かせてやれない。もっとも当地方では約７００万円という報酬は高額のほうで、それ以下でも夫婦二人三脚で頑張って子を育てている家庭は多くあるわ

けで、一概には言えないが。議員年金の復活はまずありえないが、厚生年金への加入を可能にするなど、議員を辞めた後の補償がなんらかないと、会社を辞めてまでの挑戦は難しい。

・上越の女性は男性の陰に隠れる傾向があると思う。それを望む男性風土が一番の原因かと思うが、地元の政治状況や世の中の矛盾を変えたい、あるいは目指したいことなどに「目覚めた」女性をバックアップする雰囲気と仕組みづくりが必要かもしれない。いずれにせよ、現役の市議会議員が活躍する姿を見せ、政治を変える姿を見せ、やりがいのある仕事だと常日頃アピールしていかないと始まらないと思う。

・報酬のアップが一番である。

・まず、何よりも生活を支えること。職場を退職せずに選挙に挑戦できるよう、選挙までの数ヶ月間の有給休職制度、議員としての活動期間中の無給在職制度を、すべての事業所が制度化することが、その一つ。また、自営業のように、収入そのものが補てんできない場合に対応して、選挙準備期間中の生活資金の支援、融資制度などもあって良いと思う。

・子育て支援制度を更に充実させ、保護者たる市民が、子どもの安全な日中生活を低い負担で委ねることができるようにすることは、男女問わず大事なこと。

・女性に特化して言えば、男女共同参画推進センター登録団体のみなさんが推進しているように、地域のいろいろな組織や職場の中での女性の地位を高め、常日頃から女性がその力を発揮して活躍できるようにすることが必要。それなしに、女性が市議会議員にだけはなりやすいというようなことはあり得ない。

・選挙活動の費用の負担が大きいことの解消のための方策も必要です。

・公職選挙法の改善が前提にはなるが、供託金の廃止、選挙費用の公費負担の強化、実態に合わせた選挙期間の柔軟化などが課題である。また、それぞれの政策や主張を、費用負担なしに市民にしっかり届けることができるようにするしくみ作りも大事。

・議員としてなにを目指すのかという目的が明確になることが最大の動機なので、政治に関して関心を持つこと、社会に関して問題意識を持てること、それらについて、自らがはっきり発言できる力をつけることなどを、若者や女性が身につけることだと思う。

・議員になって、市民の暮らしや平和、環境などをどう守っていくのかという問題意識が行動になって表れるので、まずその動機をしっかり確認するということではないかと思う。

・社会保障の充実、又は議員報酬の引き上げ。出来る限り、日曜議会、夜間議会を開催する。

・人それぞれに環境が違い、何とも言い難い。

・本人次第ではないのか。

・報酬がもう少しアップすればとは思う。

・男女共同参画の理念が市民の中に行き渡ればいいのでは。

・議員自身の意識改革が進んでほしいとの願いもある。（つまり女性市議を特別視しない

など。）
・今でも門戸は開かれており、議会が排除しているわけでも、出にくい環境を作り上げているわけでもない。
・政治やその関心が薄いという問題は別のことだと思う。
・最大の問題は、選挙制度の問題であり、選挙のあり方の問題なのだ。だから日本全国同じ問題を抱えていると同時に、若者、女性に限らず、男性さえもこれから立候補しなくなる（定員不足になる）はずだ。それに対してしっかりと声を上げ、法改正を叫ぶべきであろう。
・現行の中でできることは、ひとり一人を口説き、より多くの若者や女性に手を挙げてもらうことであり、上越市議会として何かできるものではない。
・市議の引退を心の中で決めた時から、自ら白羽の矢を立てた相手方に説得をすること。（2 年前から自ら候補となるべき人の評判や身辺調査をし行動する。最低でも 1 年前から本人や家族の説得をしないと遅い）
・まちづくりや、政治に興味があり、愛町精神が旺盛である方に議会の事を詳しく教えること。
・選挙の応援や後援会立ち上げに協力すること。
・選挙にかかる経費的な事を詳しく教えること。
・定員を少なくし（24 名～28 名）報酬を上げる事こと（50 万円くらいに）
・現状の政務活動費を、20 万会派・40 万個人にしたらどうだろうか。
・若者や女性の方々に、議会の実情や内容をよく知ってもらいたい。興味を持ってもらうことで、議員を目指す方々も生まれてくるのではと考える。
・待遇の改善も必要ではなかろうかと思うし、選挙区制度の検討も必要かと思う。これだけ議員活動が日常化している中、年金はなくなり、議員の交通費もない。
・選挙区制度においては、市全域一区での選挙となり地域性が薄れてきている。ある程度のブロックに分けての選挙区制にしてはどうかと思う。
・子育て中の議員等への環境の整備が必要になるのではないか。（議員活動をしやすくするため）
・土・休日の議会開催検討の時期でないか。（生活スタイルの多様化）
・生活保障を考え、報酬の増額が必要と考える。
・政治・議員に関心をもつような地域醸成が必要である。（町内会長や各種団体への調査）
・選挙費用が多額にかかるので、その対応策が必要
・生活の安定、老後の保障
・仕事の結果を見えやすくすること。（もちろん、本人の努力が第一）
・同僚、先輩議員との連携を密にすること。
・市議会議員が携わる仕事は市政の様々な分野にわたります。赤ちゃんから高齢者にいたるまですべての年代の人たち、様々な分野の仕事にかかわりがあります。それだけに、どの年代の人もどんな職業の人も出馬できるようにするのが理想的でしょう。そのためには、どんな仕事についていても、選挙期間中はもちろんのこと、準備期間も

「選挙準備と選挙活動」を保障してもらえる制度が必要だと思います。その中では、会社の了解義務、財政的な支援などが必要かと思います。女性については、議員になった場合、子育てなどでの特別の手立ても必要ではないでしょうか。

・議員に立候補するのは自由でありますので自分で考えればいいことでありその様にいつも申し上げております。しかし、あえて申し上げれば議員歳費を同人口自治体レベルまで上げ、金銭面で悩まない事が一番ではないでしょうか！（※任期が 4 年間であり、生涯の保証は無いのでありますから）

・議員の質を高め市会の大切さ、存在感、議会議員に対して、信頼感、憧れさえ感じられる中味の充実した、集団であるべきであれば議員を目指す若者や女性も出ると思う。それだけの又、待遇と環境も必要である。

・年金制度があること。

・子育て世代の女性のために、市役所内に保育所を設けること。

・子どもの教育費をカバーできる議員報酬であること。

・選挙区を全市一区制（大選挙区）ではなく、中選挙区制による選挙負担の減少と各地域に公平な議員を確保するとともに、女性議員用にクオータ制を設けること。

・それぞれの地域で、「議員を輩出し、育てる」という市民の意識を醸成すること。

・「市議会議員」のイメージは市民からよく思われていない。市民は市議会議員について、大きな流れに逆らわず、惰性で進んでいき、何もしない存在というような、批判的な目で捉えている。私が所属した期間も、ほんの一部改革に向けて行動する議員もいたが、まず前向きな提案をし、行動する議員はいなかった。行動的で、市民にいい印象を与えるような市議会になるのは、現実的には難しいのではないか。

・積極的な条例制定や、委員会での付帯決議・及び提案行動、活発な議論が行われる議会報告会など、挑戦的な態度が議会全体に必要である。

・議員報酬は専業で務められるレベルにすることが必要。50 万円台前半が望ましい。

・私の前職の所得は、月々の手取りが 10 万円前半というレベルだったため、親族からも不満はなかった。しかし、それ相応の能力を持った人なら、大抵は今働いている職場の所得より減額となり、しかも不確実性の高いものに挑戦することに、親族から納得してもらうことは非常に難しいと思われる。子育て中の若者はまず挑戦しないだろう。

・年金は国民年金の向上が必要で、非常勤特別職である議員の立場では仕方がないと思う。

・女性が政治の世界に挑戦できないのは、社会の問題である。実際に市議に挑戦しようとした何人もの女性の話を聞いたことがあるが、親族や地域からの強い反対や反発が聞かれた。どんなに女性が活躍する制度を作っても、上越市では社会が実際にそれを認めていない。

・議員報酬をもう少し高くする。議員専門職として生活し、活躍できるように報酬を充実させるべきだ。ただし、単に議員報酬を上げるだけでは市民の合意が得られないと思うので、この際議員定数を 32 人から 25 人に、 7 人の削減をすべきではないか。

・議員の身分を安定させること。議員を辞めると次の日から収入が全くなくなり、途端

に生活が厳しくなる。特に、子育て世代では４年ごとに選挙があるため収入が安定せず生活の保障もない中での立候補の決断は非常に厳しいものがある。今、厚生年金への加入が検討されているようであるが大変良いことだと思う。こういった議員に対しての保障がしっかりしてくれば若い人も立候補しやすくなるのではないか。

・全国の小さな町村議会では議会を無くし、町村総会に切り替えようという検討も始まっているようだ。大切なのは議会と市民が対話を重ねていくことだと思う。

・第 1 義として、国政・地方政治に自らの政治的理念をもち、その政策実現のため地方議員を増やす必要から、まず政党・会派・グループなどが積極的に擁立を諮る努力をしてほしい。一方で、市民からの幅広い人材発掘を考え、立候補の環境整備を諮ることも市民のための市政づくりに重要だ。

・若者・女性を含む各層の市民を対象に「議員養成」を目的とした講座を開講し、行財政など必要な基礎知識全般や、あるいは現職議員・議員経験者等を呼び、選挙対策や活動ノウハウなど提供する。実現のための 1 例としては「市民大学まちづくり講座」などの形をとり、そこに運営を委託する。また、時々の行財政課題などをテーマに現職議員との交流・意見交換会などを実施する。講座を通じ具体的な知識や情報を得ることで立候補への垣根を低くする効果や、議会傍聴の機会を増やし、議会の現状を知る効果も得られることの期待がもてるのではないか。

・議員引退後の生活不安解消に向け、議員在職中も厚生年金制度への加入が必要。

・市議を目指しやすい環境整備に向けて、即効性の提案はありませんが「市議会議員のなり手不足」、「議会高齢化」への対処は市民全体の課題として、一定の税を投入しながらでも現状打開に向けた対策を打つ必要があると考えます。

・そもそも養成講座を受講する人材がいるか・・ということが問題といわれるかも知れませんが、積極的に市民に PR と勧誘するしかありません。具体的には、一般市民への案内をはじめ、青年会議所、労働組合、各種サークル、NPO 法人、女性団体、農業団体、その他市民団体等に広く呼び掛け、それぞれの分野から体験講座として参加者を募る努力をまずやってみることから始めるしかないのではないでしょうか。上越市民の未来に向けたご健闘を期待いたします。

## ５．検討の軌跡（ホワイトボードの記録など）

当検討会は、対話を通じた議論の活性化と効率化を図るため、ホワイトボードミーティングの手法を取り入れ、検討を重ねてきました。

当市議会においてこの手法を用いた前例はなく、初めての試みでした。

ホワイトボード上で意見の「発散」と「収束」を繰り返しながら、次第にまとまっていく手法は、新たな会議の形として、十分な効果が得られるものでした。

ここでは、その検討の様子を掲載します。

【第１部】検討会の立ち上げ　～　検討項目の整理

| 年月日 | 内容 |
|---|---|
| 第１回<br>H29.３.24（金） | ・座長、副座長を互選により選任<br>・検討会の検討項目を、「市議を目指すことを阻害する現状の把握」と「改革案の策定」とすることに決定 |
| 第２回<br>H29.４.４（火） | ・市議を目指すことを阻害する課題として、①心的課題②地域的課題③物理的課題の３つを「仮説」として打ち出した。<br>・検討手法として、委員を２班に分け、ホワイトボードミーティングの手法を用いて検討することとし、ファシリテーション研修を実施することを決定<br>・検討段階において、「市民との意見交換」と「議員アンケート」を実施することを決定 |

【第２部】研修

| 年月日 | 内容 |
|---|---|
| 第３回<br>H29.４.18（火） | ファシリテーション研修①<br>・講師を招き、研修を実施<br>・ホワイトボードミーティングの実践を通じて、各委員が考える提言書のフレーム（枠組み）を共有<br> |

| | |
|---|---|
| 第４回<br>H29.４.27（木） | ファシリテーション研修②<br>・講師を招き、研修を実施<br>・２班に分かれ、ホワイトボードミーティングにより「立候補を阻害する要因」と「解決策」について検討<br> |

【第３部】課題の洗い出し（市民の意見　＋　議員の意見　＋　委員の意見）

| 年月日 | 内容 |
|---|---|
| 第５回<br>H29.５.９（火） | ・２班に分かれ、市議を目指すことを阻害する原因の洗出しを実施<br>・各委員が考える原因をポストイットに書き出して可視化する「ブレインストーミング」の手法で検討を実施<br>・原因を「制度（選挙）」「人生」「議員･議会」「地域･まちづくり」の４つに分類 |
| 第６回<br>H29.５.26（金） | ⑴　議員向けアンケートについて<br>・全議員を対象に、議員向けアンケートを実施することとし、その内容を協議（ホワイトボードミーティング）<br>・アンケートの項目は、①なぜ議員を目指したのか②出馬に当たっての障害や阻害要因は③初選挙の感想は④議員になって良かったこと、悪かったこと⑤どうすれば市議を目指しやすい環境になるか<br>・アンケートは６月定例会の会期中に回収することに決定<br>⑵　市民との意見交換会について<br>・若者や女性を対象として市民との意見交換会を実施することとし、その内容を協議（ホワイトボードミーティング）<br>・対象は、50 歳未満の市民<br>・日時は、６月 23 日（金）の午後と夜間の２回開催<br>・参加者は、１回当たり 20 人程度<br>・グループに分かれ、議員がファシリテーターとなってホワイトミーティングにより実施 |
| 中間報告①<br>H29.５.29（月） | ・正副議長に対し、これまでの検討経過を報告<br>・議員アンケートと市民との意見交換会の実施を正副議長に提案<br>・アンケートは、現職議員に加え、勇退した前職議員も対象に実施することに決定<br>・市民との意見交換会に当たっては、議員の出ていない地域からも意見をいただけるよう、開催地に配慮するよう指示 |

| | |
|---|---|
| 議員アンケート<br>H29．5．30（火）<br>～6．15（木） | ・議員アンケートを実施<br>対象：現職 32 人、前職 9 人（合計 41 人）<br>回答：現職 27 人、前職 6 人（合計 33 人）　回答率 80％ |
| 第 7 回<br>H29．6．21（水） | ・意見交換会の開催概要を確認<br>・昼の部、夜の部ともに、4 グループに分かれる。<br>・グループ分けは、市民、議員がそれぞれくじを引いて決める。<br>・参加者は名札を着用し、当日本人が記名する。（ニックネームでも可とする。） |
| 市民との意見交換会<br>H29．6．23（金） | （昼の部）<br>・時間　13 時 30 分～15 時<br>・会場　市民プラザ２階<br>・参加者　市民 9 人<br>（男 3 人、女 6 人）<br>（夜の部）<br>・時間　19 時～20 時 30 分<br>・会場　市民プラザ２階<br>・参加者　市民 19 人<br>（男 12 人、女 7 人）<br>（参加者の声）<br>・議員は遠い存在<br>・市議という仕事にワクワクしない。<br>・選挙は難しそう。<br>・選挙にお金がかかりそう。<br>・落選するリスクがある。<br>・仕事、育児、家事で忙しい。<br>・今の暮らしで精一杯。立候補なんて考えられない。<br> <br> <br> |
| 第 8 回<br>H29.7.14（金） | ・意見交換会記録及び議員アンケートの集計結果を委員に配付<br>・委員から意見交換会の感想を発表<br>（委員の声）<br>・市民から大きな反響があった。<br>・市民に活動を見える化できたことが大きい。<br>・どう意見をまとめるか、注目されているのでチーム一丸で頑張る<br>・普段、あまり関わりのない人と関われて良かった。<br>・ネット上の市民の反応をみると、高評価だった。 |

| | |
|---|---|
| 第 9 回<br>H29.7.27（木） | ・意見交換会の意見及び議員アンケートの結果をもとに、各委員が考えるポイントを出し合った。<br>・これまで出された多くの意見を収束させるため、正副座長において、意見をジャンル分けして項目立てを行うことを決定 |

【第 4 部】課題の整理

| 年月日 | 内容 |
|---|---|
| 第 10 回<br>H29．8．8（火） | ・立候補を阻害する要因を以下の６項目に括り、各項目について、具体的解決策を検討する方針を決定<br>①政治への無関心からの脱皮を<br>②議会・議員のイメージアップを<br>③選挙の困難さの解決を<br>④物理的課題の解決を<br>⑤取り巻く環境の解決を<br>⑥女性特有の壁を打ち壊す！ |

【第 5 部】解決策の検討

| 年月日 | 内容 |
|---|---|
| 第 11 回<br>H29.8.25（金） | ・2 班に分かれ、ホワイトボードミーティングの手法により、大項目１（政治への無関心からの脱皮を）の具体的解決策を検討 |
| 第 12 回<br>H29.10. 3（火） | ・第 11 回の協議結果をもとに、大項目１の具体的解決策を「政治への無関心から脱皮する 10 か条」にまとめた。<br>・2 班に分かれ、ホワイトボードミーティングの手法により、具体的解決策を深化させる検討を行った。 |
| 第 13 回<br>H29.10.26（木） | ・2 班に分かれ、ホワイトボードミーティングの手法により、大項目２（議会・議員のイメージアップを）及び大項目３（選挙の困難さの解決を）の具体的解決策を検討 |
| 第 14 回<br>H29.11.20（月） | ・2 班に分かれ、ホワイトボードミーティングの手法により、大項目４（物理的課題の解決を）及び大項目３（取り巻く環境の解決を）の具体的解決策を検討 |
| 第 15 回<br>H29.12.18（月） | ・2 班に分かれ、ホワイトボードミーティングの手法により、大項目６（女性特有の壁を打ち壊す！）の具体的解決策を検討 |

## 第 12 回　ホワイトボードのまとめ　（大項目１：政治への無関心からの脱皮を）

### 第 12 回市議を目指しやすい環境整備検討会　まとめ

#### １．議会傍聴の改革

・情報共有→わかる　テーマの見える化
・人数が増える
・来やすい環境
・ＴＶを置いて中継する。（総合事務所、病院の待合室などで行う。）
課題：病院と交渉
・~~委員会の傍聴を別室で（議員の解説付き）~~
・委員会の番外発言

#### ２＆３．〇〇議会

・子ども：教育委員会（学校）との交渉
議会として、やり方を議論
・女性や若者：テーマ設定 ⟶ 意見交換会等を利用しテーマを探る
人をどう集めるか？
・模擬議会を行う（子ども、女性、若者など）
↓
答える側は理事者側

まとめ：子ども、女性、若者などを対象にした模擬議会を、年１回を目標に開催する。開催方法は、市民の意見を十分に聴いてテーマ設定をする。一般質問に答えるのは、理事者側とする。

#### ４．意見交換会の改革

・出張意見交換会（なるべく小さな単位で）
・地域でやる場合、テーマは地域協議会で決める。
・「議員の本音を言う」を研究する。
・開催回数は現状×
・交換会で出た市民意見を、再度聞くケースも

まとめ：なるべく小さな単位も含めて出張意見交換会を開催する。
地域で行う場合、地域協議会でテーマ設定を行う。
※議員が本音で発言するやり方について、研究していく。

#### ５．小中学校の学び

・全学校で議会についての総合学習を実施する。
※課題として、教育委員会との交渉
・回数、時間、学校単位

まとめ：市内の全小中学校で、議会についての総合学習を実施してもらえるように教育委員会に交渉する。

#### ６．広報ＰＲ

・広報　ネット活用(YouTube、line、Facebook、ホームページ
・「かけはし」のあり方を考える。⟶ 動画版かけはし(YouTube)
かけはしの編集方法を考える
└▶自己紹介
FM-J の復活 → 政策、信条を放映 → JCV でできないか。
市議会議員の１日（ＰＶ）
見てもらえるホームページにするべき

まとめ
広報積極的に展開すること
・かけはしの編集方針検討（動画版かけはしも）
・FM－J 番組の復活
・ネットの積極活用
・ホームページ
・「議員 X 氏の忙しい一日」PV 作成→マスコミ

#### ７．土日・夜間議会、出張議会

・出張議会　（デメリット）費用がかかる
（メリット）あなたのまちでやる → 見に行く。
・意見交換会が形骸化
・土日夜間議会　理事者側の作業、費用
・何のためにやるかをはっきり示す必要
・土日しか来れない人いる（勤労者）→１人でも来れば、やる意味ある。
・録画見れる。なぜ傍聴にくるのか？
・土日にパブリックビューイング
・生でみる臨場感
・夜やって、何人の人がくるか？
・公開されていることが大切だ
・やってみる価値はある。
・お金をかけただけの価値があるか。
・関心のない人を、どう引っ張ってくるか
・外に出ていく議会　→　行動力
・発信できる議会　→　発信力
まとめ
・関心０（ゼロ）の人を引っ張り出すために、土日、夜、出張して開催

#### ８．インターン、サポーター、養成、勉強会

・サポーター　市民から選ぶ（公募）
政策立案、市民交流、有償？、無償？
議会のサポーター
市民要望のリサーチ
専門職
・インターン　いない
県庁所在地では、やっている→学生の夏休み期間、雑務
・議員養成　インターン、秘書、ボランティア
・勉強会　初歩の議会の勉強会（予算書、決算書の読み方・・・）
・会派ごとに秘書を雇う（政務活動費）
（まとめ）
・インターン学生など：夏休み等期間を決め、議会・議員の仕事を手伝い、理解を深める。（無償）　実施例：新潟市ほか
・秘書など：有償で、会派ごとに　など
政策立案、調査等を行う。
・大学連携

#### ９．言葉、表現力の改革

・議会の課題か？
・個々の議員の注意が必要
・ＪＣＶ、YouTube、ＦＭ－Ｊで用語解説
・議会用語は、行政用語そのもの
・ハンドブック、用語解説
・使う言葉の解決
・何が常套句か出してみる。→常套句をやめる。
・噛み砕いて話す努力
・横文字は使わない。

#### 10．議員定数、選挙区の在り方（地域協議会枠）

・定数が多いと・・・意見集約しにくい、費用がかかる
・定数が少ないと・・費用かからない。意見集約しやすい？
・定数は一考すべき。
・地協枠の設定・・・どの地域から入れるのか（全区で１人）
選挙に出やすい（市民理解、金銭）
地域の意見吸い上げ　　非現実的
多様性、行政に対する力強まる

## 第 13 回　ホワイトボードのまとめ　（大項目 2：議会・議員のイメージアップを）

### 第 13 回市議を目指しやすい環境整備検討会　まとめ

### （大項目２）議会・議員のイメージアップを

**A班**

- 広報　仕事の紹介、１週間の動き、議員個人の紹介
  - 視察とは、議会とは・・・
  - かけはし
- ＦＭ－ＪやＪＣＶで、パーソナリティと対話式に紹介
- 議員団と高校生の意見交換会（若者と、女性と・・・）
- 「かけはし」で議員紹介　４人／回×８回（２年で）
- 市議会ＨＰ、ＳＮＳのリンクを貼る。（情報発信力の強化）
- ~~議員がボランティア（高度な）~~
- 若い人、女性が多いとイメージアップ
- 積極的に議員発議を出す（議会１回に１件）
- 議会改革度１位をとる。（現在は７位）
- 慣例や通例を打破
  - ○○にこだわらない（服装など）
  - 改革の姿勢を市民に示す

**B班**

- 公約の達成度が見えない
- 選挙の後、何もしていない。・・・議会活動の見える化
  - 個人の報告会を開く
  - 議会で一般質問を行う（８割の議員が行う。議長もできる）
    - 義務化？
  - ＰＶづくり
    - タブレット
  - ユーチューバー
    - イメージアップ用
    - 100 インチのスクリーン
    - 議場カメラで全員映る
- 新しい発想の人がいない（イメージ）
- 議会が堅苦しい（イメージ）
  - ＳＮＳ利用法
    - 個人、議会、会派で
  - 服装の自由化
  - 笑顔を心掛ける
  - 揚げ足取りの雰囲気
  - 立候補の事典で自由さを
- 型にはまった人が多い（個性がない？）
- 恰好が悪い
- ベテランが強く、若者や女性の発言が少ない
- 上越市議会はかなり自由
- 大変そう
  - 激務、要望への対応、視察、プライバシーない。自分の時間ない、
  - 家庭・個人の時間ない、市民の目が厳しい、バッシング対象（批判対象）
  - 人の道、倫理

覚悟の問題

- 大変な現実もさらけ出す
- プライバシー、市民の視線
- 服装の自由化
- 品位論議

## （大項目 3：選挙の困難さの解決を）

### 第 13 回市議を目指しやすい環境整備検討会　まとめ

### （大項目３）選挙の困難さの解決を

**A班**

- 公選法のマニュアルを作る。
- 選挙の流れが分かるビデオの作成（決意から当選まで）
- 選挙費用をもらえる額の一覧を作る（上越バージョン）
- 公費負担の強化・拡充
- 公選法の改正（個別訪問、メール、文書配布、供託金）③
- 国への意見書
- 選挙区の変更はしない（全市一区）
- 政見放送　ＦＭ－Ｊで音声のもの　④

**B班**

①選挙を知らない

- ①・組織がなくてもできる　→市長選に学ぶ　⇒　選挙のあり方が変わってきている。
- ・本や手引きで勉強
  - ⇩「上越版手引き」を作る
    - （マニュアル、流れ、公費一覧…）
    - 間違わない公選法（選挙制度）

②お金がかかりそう

- ・お金のかからない選挙の研究をして手引きを作る
- ②・公費負担制度の拡充
- ・昔の「選挙プロ」の話しは聞かない。

③落選

- ~~・選挙に臨める有給休暇制度　→　落ちたら復職~~

結論

選挙は覚悟

第 14 回　ホワイトボードのまとめ　（大項目 4：物理的課題の解決を）

**第 14 回市議を目指しやすい環境整備検討会　まとめ**

**（大項目４）物理的課題の解決を**

A班

**1．議員報酬**
・特例市平均 52 万円（つくば市 45 万円、山形市 64 万円、水戸市 59 万、伊勢崎市 48.5 万円、長岡 52.6 万円　など）
・報酬アップを審議会に提案する。

適正な報酬により、女性や若者も立候補しやすくなるのではないか。

**2．政務活動費**　　特例市並みに
・現行　月額 5 万円（年額：個人 30 万円、会派 30 万円）
・配分比率　会派分を個人配分にする。
・使途

**3．生活保障**　　国に要請
・厚生年金への加入
・各種社会保障
・退職金制度

**4．議員定数**
・定数を増やして報酬を下げる
・兼業（仕事と議会活動）を企業に働き掛ける
・政務活動費を増やす。
・議員を減らして専任化する。（具体例：32 人→28 人）

B班

①報酬
・報酬の増額
・家族手当（子ども　他）
・寒冷地手当
・報酬の正当性の主張

②社会保障
・年金の復活
・厚生年金化

③政務活動費
・政務活動費の比率変換
・政務活動費の増額

④選挙制度
・議員定数
・選挙区制導入

⑤その他　　費用弁償の適正化？

【解決策】

①報酬
・全国レベルに引き上げる。
・当市では、部長級に上げる。
・報酬審議会へ議会からの提言を毎年上げる。
・手当の拡充
・市民が納得する形で
・個人事業主であることの理解

②社会保障
・厚生年金化目指す（通年議会か!!）
・市民理解

③政務活動費
・個人額の増額（比率変更）
（個人 60 万、会派 30 万／人）
・後精算制に変える。
・仮払制に変える。
・事務局の体制強化
・各会派に秘書を置く（事務含む）

④選挙制度
・報酬と定数はリンクさせない
（例：~~定数減らすから報酬上げる。~~）

（大項目 5：取り巻く環境の解決を）

**第 14 回市議を目指しやすい環境整備検討会　まとめ**

**（大項目５）取り巻く環境の解決を**

A班

①地域活動をうながす
地域協議会、育成会、ＰＴＡ
◎テーマの設け方（ごみ、子育て、教育）
それをどう活用するか。
正しく取り組めば
本人の意識を高める
＋
まわりの人に認めていただく

②後継者づくり
70 歳　議員定年を推奨
責任を持って 2 年前から準備育成

③「後援会や地域の支援が絶対的な必要条件ではない」という認識を広める。

B班

・自分を良く知っている人から推薦（説得）してもらう。
・根回しをする。
・日頃の行い（地域活動・地域協議会・町内会・ＰＴＡ・ＮＰＯ・その他）
・・・信頼関係
・地位のある人からの後押し
・地域活動（団体）から人材の発掘・育成
・家族と普段からの信頼関係
・本人の本気度

本人の本気度
×
信頼関係力
→ 実現
日頃の行い
地位のある人々との信頼関係
根回し

町内会長連絡会などと共同して、未来のリーダーを育てるための研究会を開いてはどうか。

第 15 回　ホワイトボードのまとめ　（大項目 6：女性特有の壁を打ち壊す！）

## 第 15 回市議を目指しやすい環境整備検討会　まとめ

### （大項目 6）女性特有の壁を打ち壊す（発散）

- 男性の意識を変える必要　女性もつられろ　意識改革　きわめて難しい
- 説得の力
- 現役女性議員の講演会を開く
  （大変なことも良いことも）
  啓発活動
- （議会人として）女性の地位向上を積極的に発信
- 女性の仲間を組んで、議員を出す努力
  （政治塾、勉強会）
- 女性議員の会（集まらない）
- 後継者に女性をたてるしばり（意識）
- 「女性のほうが当選確率高い」（？）を知らせる
- やる気！
- 共産、公明から出して率先せよ
- 地域協議会への参画を促す
- 女性議員ってどんな人
- 女性議員フォーラム開催
- プロモーション映像
- バックアップ制度（公費負担？）
- クォーター制　←制度的問題あり。国制度あり。今後検討。
  社会的通念変わらないので、実際やってみせる　韓国、欧州など導入
  法律的課題？
  条例的には？
- 地域理解なしでも出られる機運　啓蒙
- 家族の理解　啓蒙
- 飲み会の数を減らす／飲み会の雰囲気イヤ
  イメージ悪い
- 介護の問題　7040 問題
- 授乳室設置
- 保育ルーム
- 親子同伴の傍聴
- 女性進出できるお約束
- （金がかかるが）市議会主催で女性議員を増やすフォーラム
  女性だけ？議員中心？
- 大きな社会問題と提起する
- 地方議会主導がむずかしい。
- 山尾志桜里　やる気ある

### （収束）

「私なんて・・・」「旦那が×」・・・
自ら立つ意識の希薄性

男性の意識改革
女性の意識改革
→ 地域理解不要でも・・・

啓発活動
- 政治塾
- 女性議員フォーラム
- 現役女性議員の講演会
- （市議会主催）女性議員を増やすフォーラム
- ＰＶ（プロモーション映像）

後押しとなる

バックアップ体制
- 公費助成
- 子どもを選挙期間中預かるとか？

地域活動との連携
- 地域協議会参加／手を挙げる
- 市民大学
- ＮＰＯ、市民団体
- 町内会　　etc

啓蒙（啓発）の力
- 家族への啓発
- 地域への啓発
- 自身への啓発

意識改革

法律的課題あるが・・・
クォーター制

介護と女性
負担
育児と女性
負担

バックアップ
- 授乳室
- 保育ルーム
- 親子傍聴席
- ショートステイ制度　等
- 老人バックアップ

政党への働きかけ
女性だから何でも良い？
女性に限らず

### （活用）

- 女性がなぜ議会に必要なのか？
  市民の幸せのために
  少子高齢化時代、女性の意見が大事に
  そのための解決策

女性に限らず・・・
多種多様な人、バックグラウンド
広い代表者
特に女性と若者が足りない　検討会
市民生活の全てを話し合う議会
（女性としての）経験、体験の意識
発信力の問題でもある（ごみなど）
女性視点
上越市に足りない
男努力しても足りない

「まず女性を」から始める

【第 6 部】提言に向けた検討

| 年月日 | 内容 |
|---|---|
| 第 16 回<br>H29.12.27(水) | ・これまでの検討をもとに、提言書の素案が示され、その内容について検討 |
| 第 17 回<br>H30. 1.12(金) | ・前回示された提言書の素案の内容について検討<br>・大項目の集約･整理が行われ、項目数を 6 項目から 5 項目に変更したほか、提言書の内容、文言等の修正を行った。<br>・提言書の巻末に「まとめ」として、すぐに着手すべきもの、特に重要なものを抜き出して掲載することが提案され､掲載すべき項目の抽出を行った。 |
| 第 18 回<br>H30. 2. 1（木） | ・巻末に掲載する「まとめ」の内容について検討<br>・【早急に取り組むべきと提案する改革案】として 7 項目を示すことを決めた。<br>・提言書の素案をもとに、概要版を作成することとした。 |
| 第 19 回<br>H30. 2. 16（金） | ・概要版の内容について検討<br>・概要版の内容、文言の修正を行った。<br>・2 月 19 日に開催する市民との意見交換会について検討<br>・概要版の解説を行い、提言に対する意見を聴取することとした。<br>・参加人数に応じて、小グループに分かれて意見交換を行うこととした。 |
| 市民との意見交換会<br>H30. 2.19（月） | ・会場　木田庁舎 5 階　第 2 委員会室<br>・参加者　市民 11 人（男 9 人、女 2 人）<br>（参加者の声）<br>・議員の考えが分かり参考になった。<br>・全てやるべきことだし、頑張ってやっていただきたい。<br>・今現在、自分は全く興味を持たないことなので、私のような人間でも関心を持てるように改革をしてほしい。<br>・市議が足を使い市民と触れ合えば問題が解決すると思う。<br> <br> |
| 第 20 回<br>H30. 3. 2（木） | ・市民との意見交換会の振り返りを実施<br>・市民意見を踏まえ、提言書の一部を修正 |
| 議長答申<br>H30. 3.26 | ・全委員立ち合いのもと、提言書を議長に手交 |